平成30年加茂市議会12月定例会会議録（第1号）

12月10日

議事日程第1号

平成30年12月10日（月曜日）午前9時30分開議

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 諸報告
- 第4 第55号議案
- 第5 第70号議案
- 第6 第56号議案から第68号議案まで及び第72号議案から第80号議案まで
- 第7 一般質問

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 諸報告
- 日程第4 第55号議案 専決処分の承認について（平成30年度加茂市一般会計補正予算第9号）
- 日程第5 第70号議案 監査委員の選任について（坂中春信氏）
- 日程第6 第56号議案 平成30年度加茂市一般会計補正予算（第10号）
 - 第57号議案 平成30年度加茂市国民健康保険特別会計補正予算（第5号）
 - 第58号議案 平成30年度加茂市水道事業会計補正予算（第1号）
 - 第59号議案 平成29年度加茂市一般会計決算の認定について
 - 第60号議案 平成29年度加茂市国民健康保険特別会計決算の認定について
 - 第61号議案 平成29年度加茂市後期高齢者医療特別会計決算の認定について
 - 第62号議案 平成29年度加茂市宅地造成事業特別会計決算の認定について
 - 第63号議案 平成29年度加茂市下水道事業特別会計決算の認定について
 - 第64号議案 平成29年度加茂市介護保険特別会計決算の認定について
 - 第65号議案 平成29年度加茂市在宅介護サービス事業特別会計決算の認定について
 - 第66号議案 加茂市議会議員及び加茂市長の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の一部改正について
 - 第67号議案 加茂市議会議員及び加茂市長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部改正について
 - 第68号議案 加茂市長の選挙におけるビラの作成の公営に関する条例の一部改正について
 - 第72号議案 新潟県加茂市特別職の職員の給与に関する条例等の一部改正について
 - 第73号議案 新潟県加茂市職員の給与に関する条例の一部改正について

- 第74号議案 平成30年度加茂市一般会計補正予算（第11号）
 第75号議案 平成30年度加茂市国民健康保険特別会計補正予算（第6号）
 第76号議案 平成30年度加茂市後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）
 第77号議案 平成30年度加茂市下水道事業特別会計補正予算（第3号）
 第78号議案 平成30年度加茂市介護保険特別会計補正予算（第3号）
 第79号議案 平成30年度加茂市在宅介護サービス事業特別会計補正予算（第2号）
 第80号議案 平成30年度加茂市水道事業会計補正予算（第2号）

日程第7 一般質問

浅野 一明君

1. 加茂市の財政について

白川 克広君

1. 「ため池の防災・減災対策」について
 2. 「市民バス等公共交通機関における運転担当者の健康管理対策・事故防止対策」について
 3. 「バラ園の充実」について

安武 秀敏君

1. 加茂市史編さん事業の問題点について
 2. 加茂山公園入口のトイレについて

○出席議員（17名）

1番	三 沢 嘉 男 君	2番	藤 田 明 美 君
3番	白 川 克 広 君	4番	佐 藤 俊 夫 君
5番	大 平 一 貴 君	6番	浅 野 一 明 君
7番	滝 沢 茂 秋 君	8番	保 坂 裕 一 君
10番	森 山 一 理 君	11番	山 田 義 栄 君
12番	中 野 元 栄 君	13番	安 田 憲 喜 君
14番	茂 岡 明 与 司 君	15番	樋 口 博 務 君
16番	安 武 秀 敏 君	17番	樋 口 浩 二 君
18番	関 龍 雄 君		

○欠席議員（0名）

○欠員議員（1名）

○説明のため出席した者

市 長	小 池 清 彦 君	副 市 長	吉 田 淳 二 君
顧 問	中 野 清 君	総 務 課 長 教 育 委 員 会 庶 務 課 長	青 柳 芳 樹 君

企画財政課長 会計課長	武内 豊 君	税務課長	菅家 裕 君
農林課長 農業委員会 事務局長	和田 正利 君	商工観光課長 教育委員会 社会教育課長	明田川 太門 君
市民課長	青木 敏男 君	健康課長	井上 毅 君
建設課長	珊瑚 保 君	都市計画課長 水道局長 環境課長	樋口 敏晴 君
下水道課長	和田 利政 君	福祉事務所長 加茂市介護支援センター 市民福祉交流センター 「加茂美人の湯」所長	車谷 憲繁 君
教育長	殖栗 敏夫 君	教育委員会 学校教育課長	栢 森 耕太郎 君
教育委員会 文化会館次長 館長事務取扱	草野 智文 君	教育委員会 公民館長	有本 幸雄 君
教育委員会 図書館長	土田 修也 君	監査委員	坂中 春信 君
監査委員会 事務局長	目黒 博之 君		

○職務のため出席した事務局員

事務局長	吉田 裕之 君	係長	美原 弘美 君
係長	石津 敏朗 君	主査	吉田 和実 君
嘱託速記士	臼杵 加奈子 君		

午前9時30分 開会

○議長（森山一理君） これより平成30年加茂市議会12月定例会を開会いたします。

午前9時30分 開議

○議長（森山一理君） 直ちに本日の会議を開きます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（森山一理君） これより日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第86条の規定により、議長において、17番、樋口浩二君、18番、関龍雄君、1番、三沢嘉男君を指名いたします。

日程第2 会期の決定

○議長（森山一理君） 次に、日程第2、会期の決定を議題といたします。

議会運営委員会における今期定例会の運営について、審査の結果を委員長より報告を求めます。

〔議会運営委員長 樋口博務君 登壇〕

○議会運営委員長（樋口博務君） おはようございます。ただいまから議会運営委員会の結果を報告いたします。

本日から12月定例会が開催されますので、去る12月3日に議会運営委員会を開催いたしました結果、次のとおり決定いたしましたので、皆様方の御賛同をお願いいたします。

会期は、本日から12月25日までの16日間といたすことになった次第であります。今回提出されました一般質問の通告は6名であります。議事の運営につきましては、皆様方のお手元に配付してあります順序によって行い、本会議は本日10日、11日及び25日に開催することになりました。12日に連合審査会、13日から休日を除く20日までの間に各委員会の開催をお願いし、付託議案の審査を行っていただくことになりました。最終日の25日は、各委員長の報告を行い、これを決定していただき、その後人事議案の即決を、また会期中に議員発案等が提出された場合は最終日の日程に組み、これらの即決をお願いし、12月定例会を終了することになりました。

以上をもちまして議会運営委員会の結果報告を終わります。

○議長（森山一理君） お諮りいたします。

今期定例会の会期については、議会運営委員長報告のとおり、本日から12月25日までの16日間といたしたいと思えます。なお、議事の運営につきましては、議会運営委員長報告のとおり取り計りたいと思えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。よって、今期定例会の会期は、本日から12月25日までの16日間と決定いたしました。

なお、議事の運営につきましては、お諮りのとおり決しました。

市長の挨拶

○議長（森山一理君） 次に、市長より招集の挨拶があります。

〔市長 小池清彦君 登壇〕

○市長（小池清彦君） おはようございます。御来駕を賜りまして本当にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

決算議会でございます。それ以外の案件といたしましては、専決させていただきました新町につくらせていただきます消防のポンプを入れる建物の敷地、これが今のところから、先方の御都合で一日も早く退出してもらいたいと、こういう御要望もあるものですから、急いで専決をさせていただいた次第でございます。

決算のほうは、もう新聞にも出ておまして、財政調整基金が80億ではなくて80万円であるということでございまして、これくらい市民の皆様方のお幸せのために金を使えば大変よかったのじゃないかと思っております。実際は、加茂市には特別の財源があるわけでございまして、土地開発基金、それから全く借金のない宅地造成特別会計の繰越金がございます、そのほかの基金もありますので、それが1,000万ぐらいありますので、2億3,000万はあるということで十分かと思っております。

30年度と31年度で合わせて起債、借金の返済額が約2億減りまして、それだけ財政に余裕が出てくるということで、28年度と29年度であえてたくさんのごんをやらせていただいたわけでございます。全国に先駆けてやりました小中学校の冷房化、加茂市がそれやったら、文科省は大変これはいいということで、安倍内閣の今や最大の力を入れております全国の小中学校の冷房化、これが全国版になったわけでございますが、我々は先駆けてやったわけでありまして。あと、市営の5つの体育館に全部エアコンを入れると、それから病児保育園をつくり、北コミュニティセンターもつくり、市民バスも猿毛から西加茂西部までの路線をつくって、大体市民バス網が一応完成したかなというところへ持っていったわけでありまして。燃やせないごみの収集も日にちを倍にさせていただきました。それだけ28年度、29年度にやらせていただいて、先駆けて対応をさせていただいた次第でございます。加茂市の財政が本当に楽になるのは平成38年度ぐらいからになります。その辺になりますと、下水道の関係の起債償還がどんどん減っていきますので、それくらいになると大変楽になるのですけれども、それまではいろいろ市議会の皆様方ともよく御相談しながら頭を絞った財政運営が続くであろうし、これを続けなければならぬ。ここで金をためろなんていうことを言い出したら、たちまち加茂市民は不幸になってしまうわけでありまして。その辺を今後市議会の皆様方と御相談しながら加茂市民の皆様、日本のトップクラスの市政の水準をしっかりと堅持してまいりたいと、こんなふうに思っておりますのでございます。

そういうことで、決算議会でございます12月議会、おいでを賜りまして本当にありがとうございました。重ねまして厚く御礼申し上げます。御挨拶とさせていただきます。よろしく御願い申し上げます。お世話様になります。

日程第3 諸報告

○議長（森山一理君） 次に、日程第3、諸報告を行います。

報告第16号、損害賠償額の決定及び和解についての専決処分報告について、市長から報告がありました。その写しをお手元に配付してありますので、御了承ください。

次に、報告第17号、監査委員から財政的援助団体等監査及び平成30年8月分、9月分、10月分の例月現金出納検査の結果報告がありました。その写しをお手元に配付してありますので、御了承ください。

次に、報告第18号、教育長から教育に関する事務の管理及び執行の点検・評価の報告がありました。その写しをお手元に配付してありますので、御了承ください。

次に、報告第19号、9月定例会以降の議長会の状況について、その概要を別紙のとおりお手元に配付してありますので、あわせて御了承ください。

日程第4 第55号議案

○議長（森山一理君） 次に、日程第4、第55号議案を議題といたします。

当局の説明を求めます。

〔市長 小池清彦君 登壇〕

○市長（小池清彦君） ただいま上程になりました議案につきまして、その概要を御説明申し上げます。

第55号議案は、平成30年度一般会計補正予算の専決処分について御承認をお願いするものであります。この補正予算は、消防施設整備費1,700万円を増額し、これに充てる財源として市債1,570万円などを増額して措置し、11月26日付で専決処分いたしましたものであります。この結果、予算の総額は141億8,328万6,000円となりました。繰越明許費につきましては、消防施設整備費について年度内に事業が完了しない見込みのため、設定したものであります。地方債の補正につきましては、消防事業債について限度額を変更したものであります。

以上、提案いたしました議案についてその概要を御説明申し上げました。何とぞよろしく御審議の上、全員の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（森山一理君） 当局の説明が終わりました。

お諮りいたします。ただいま議題となっております第55号議案については、会議規則第37条第2項の規定により委員会への付託を省略したいと思っております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。

よって、第55号議案については委員会への付託を省略することに決しました。

暫時休憩をいたします。

午前 9時44分 休憩

午前10時01分 開議

○議長（森山一理君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいま議題となっております第55号議案について、これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 討論なしと認めます。

これをもって討論を終結いたします。

これより第55号議案、専決処分の承認についてを採決いたします。

お諮りいたします。本案は承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。

よって、本案は承認することに決しました。

日程第5 第70号議案

○議長（森山一理君） 次に、日程第5、第70号議案監査委員の選任についてを議題といたします。

当局の説明を求めます。

〔市長 小池清彦君 登壇〕

○市長（小池清彦君） ただいま上程になりました議案につきまして、その概要を御説明申し上げます。

第70号議案は、監査委員の選任についてであります。これは、現委員であります坂中春信氏の任期が本年12月16日に満了となりますので、地方自治法第196条第1項の規定により、識見を有する者として同氏の再任について議会の御同意をお願いするものであります。

以上、提案いたしました議案について、その概要を御説明申し上げました。何とぞよろしく御審議の上、全員の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（森山一理君） 当局の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 質疑なしと認めます。

これをもって質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております第70号議案監査委員の選任については、これに同意することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。よって、本案はこれに同意することに決しました。

暫時休憩いたします。

午前10時05分 休憩

午前10時06分 開議

○議長（森山一理君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

日程第6 第56号議案から第68号議案まで及び第72号議案から第80号議案まで

○議長（森山一理君） 次に、日程第6、第56号議案から第68号議案まで及び第72号議案から第80号議案までを一括議題といたします。

当局の説明を求めます。

〔市長 小池清彦君 登壇〕

○市長（小池清彦君） ただいま上程になりました議案につきまして、その概要を御説明申し上げます。

第56号議案は、平成30年度一般会計補正予算であります。この補正予算は、総額3,959万2,000円の増額であります。歳出の主な内容といたしましては、道路附属物新設改良費1,578万9,000円などを増額し、職員人件費322万8,000円を減額するものであります。これに充てる財源として、県支出金2,295万5,000円などを増額して措置するものであります。この結果、予算の総額は142億2,287万8,000円となります。

繰越明許費の補正につきましては、道路附属物新設改良費について年度内に事業が完了しない見込みのため、設定するものであります。

地方債の補正につきましては、都市計画事業債について限度額を変更するものであります。

第57号議案は、平成30年度国民健康保険特別会計補正予算であります。この補正予算は、繰入金

591万3,000円を増額し、同額県支出金を減額するものであります。

第58号議案は、平成30年度水道事業会計補正予算であります。この補正予算は、収益的収支につきまして支出で営業費用385万5,000円を増額するものであります。

第59号議案から第65号議案までは、平成29年度一般会計及び各特別会計の決算について御承認をいただきたいというものであります。これにつきましては、監査委員の意見を付してありますので、よろしく御審議くださいますようお願い申し上げます。

第66号議案は、加茂市議会議員及び加茂市長の選挙における選挙運動用自動車の使用の公営に関する条例の一部改正について、第67号議案は加茂市議会議員及び加茂市長の選挙における選挙運動用ポスターの作成の公営に関する条例の一部改正についてであります。これは、公職選挙法施行令の改正にあわせ、選挙運動用自動車の自動車借上料と燃料費及びポスターの公営単価を改正するものであります。

第68号議案は、加茂市長の選挙におけるビラの作成の公営に関する条例の一部改正についてであります。これは、公職選挙法の改正により、市議会議員も選挙運動用ビラの配布ができることとなりましたので、市長選挙のビラの作成費の公営単価の改正に加えて市議会議員のビラの作成も公営化するものであります。

第72号議案は、新潟県加茂市特別職の職員の給与に関する条例等の一部改正、第73号議案は新潟県加茂市職員の給与に関する条例の一部改正についてであります。これは、平成30年の人事院勧告により、国の指定職の勤勉手当が0.05月分引き上げられ、また国の行政職の勤勉手当が0.05月分、俸給表が平均0.2%引き上げられましたので、議員及び特別職の期末手当を0.05月分引き上げ、一般職員については勤勉手当を0.05月分、月例給を平均0.19%引き上げるなど、それぞれ国と同様に改正をいたしたいというものであります。

第74号議案は、平成30年度一般会計補正予算であります。この補正予算は、給与等改定所要額647万4,000円、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計に属する職員の給与改定に伴う繰入金31万6,000円を増額し、これに充てる財源として繰入金679万円を増額して措置するものであります。

第75号議案から第80号議案までは、各特別会計の補正予算であります。国民健康保険特別会計につきましては、給与改定所要額21万円を増額し、繰入金を増額して措置するものであります。後期高齢者医療特別会計につきましては、給与改定所要額3万2,000円を増額し、繰入金を増額して措置するものであります。下水道事業特別会計につきましては、給与改定所要額15万8,000円を増額し、繰越金を増額して措置するものであります。介護保険特別会計につきましては、給与改定所要額25万3,000円を増額し、国庫支出金などを増額して措置するものであります。在宅介護サービス事業特別会計につきましては、給与改定所要額19万6,000円を増額し、サービス収入を増額して措置するものであります。水道事業会計につきましては、給与改定所要額17万5,000円を増額するものであります。

以上、提案いたしました議案について、その概要を御説明申し上げます。何とぞよろしく御審議の上、全員の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（森山一理君） お諮りいたします。ただいま議題となっております議案のうち、第59号議案か

ら第 65 号議案までの平成 29 年度各会計決算の認定については、3 つの決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思ひます。

また、各決算審査特別委員会の所管及び定数は、お手元に配付の議案付託表及び委員名簿のとおりといたしたいと思ひます。これに御異議ござひませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。よつて、お諮りのとおり決しました。

なお、各決算審査特別委員会の委員の選任については、委員会条例第 8 条第 1 項の規定により、議長において委員名簿のとおり指名いたします。

次に、ただいまの 7 議案を除く各議案は、議案付託表のとおりそれぞれ所管の常任委員会に付託いたしました。

10 時 35 分まで休憩いたします。

午前 10 時 15 分 休憩

午前 10 時 35 分 開議

○議長（森山一理君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、報告いたします。休憩中に各決算審査特別委員会が開催され、

決算審査第 1 特別委員長に 白川克広君 副委員長に 大平一貴君

決算審査第 2 特別委員長に 佐藤俊夫君 副委員長に 関龍雄君

決算審査第 3 特別委員長に 浅野一明君 副委員長に 安田憲喜君

がそれぞれ互選されました。

午後 1 時まで休憩いたします。

午前 10 時 35 分 休憩

午後 1 時 00 分 開議

○議長（森山一理君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

日程第 7 一般質問

○議長（森山一理君） 次に、日程第 7、一般質問を行います。

通告順により質問を許します。

質問の要旨を順次局長に朗読いたさせます。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（森山一理君） 6 番、浅野一明君。

〔6 番 浅野一明君 登壇〕

○6 番（浅野一明君） 大志の会の浅野一明です。12 月議会に当たりまして一般質問をさせていただきます。

私のほうからは、加茂市の財政について質問させていただきます。今議会に提出されました平成 29 年度決算の資料を見まして、まず気になった数値が経常収支比率 99.9% という項目です。この指標

は、従来から財政構造の弾力性を示す指標と言われてきました。この比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示すとされています。かつてのように投資的経費の財政需要が高かった時代にはそのとおりと言えましたが、現在のように投資的経費への需要が下がり、扶助費のような経常費への需要が高まった時代にあっては、この比率が高いからといってそのまま財政が硬直しているとか財政が逼迫しているとは一概に言えないものと考えます。しかしながら、経常収支比率が高過ぎれば施設の更新や新設といった新たな投資ができないのはもとより、公債費を発生させるような大規模な施設改修も不可能でありますし、災害時に災害復旧事業費を捻出することができないことも事実であろうと思います。加茂市の平成29年度決算書では、この経常収支比率が99.9%となっております。県内類団の90.3%、議員の皆さんも監査委員さんの意見書をお持ちだと思いますが、この意見書の73ページに載っておりますので、お手元にありましたらごらんください。これと比較しましても加茂市のほうが約10%高い状態です。経年の変化を見ても、これも監査委員の意見書のその前のページ、71ページ、72ページに載っております。この経年変化を見ましても平成21年度の加茂市の経常収支比率は93.1%であったものが各年ごとに増減はあるものの、徐々に数値が上がってきています。前年度の平成28年度は、加茂市の経常収支比率は97.4%でありまして、県内市町村で最高となっております。この数値よりも平成29年度はさらに悪化しています。これまで加茂市では経常経費の中でも人件費を抑える努力は目立ってなされてきました。平成28年度の決算資料で、加茂市を含め、県内の人口5万人以下の8市を比較しますと、これ平成28年度の資料でして、私がこの質問つくった時点ではまだ29年度の県内の各団体の決算出ていませんでしたので、とりあえず28年度の決算資料で比較させてもらいました。もう一度ちょっと戻って読みます。平成28年度の決算資料で、加茂市を含めまして県内の人口5万人以下の8市を比較しますと、人件費についての加茂市の経常収支比率21.9%という数値は、これは低いほうに入ります。これ以上の人件費抑制で経常費を抑えることは困難であろうかと思えます。この経常収支比率は、改善の必要があると考えますが、これについて今後どのような方針をとられるのかお聞きいたします。

平成29年度決算資料で次に気になる項目が財政調整基金が87万2,000円となったことです。経常収支比率が高くとも財政調整基金が潤沢にある場合は、さほど問題も起きないものと思います。災害対応等、緊急の投資的経費が発生しても取り崩して措置することができるからです。現に加茂市でも平成29年度は雪害対応などのため、この基金の取り崩しで対応しました。その結果、財政調整基金は87万2,000円となっております。こちら監査委員さんの意見書の33ページに載っておる数値です。

ここで、平成28年度の決算資料で加茂市を除く県内の人口5万人以下の7市の財政調整基金を見ますと、小千谷市が34億7,504万4,000円、見附市が11億1,282万6,000円、糸魚川市が18億2,455万1,000円、妙高市が50億8,321万5,000円、阿賀野市が19億6,110万円、魚沼市が58億5,211万円、胎内市が10億716万6,000円となっております。これを各市の決算の歳入総額と比較してみますと、歳入総額に対する財政調整基金の額の大きさは少ない市で6.2%、多い市で22.1%となっております。財政調整基金をどこと比較したらいいのか、特に基準もないので、とりあえずこれ各市の決算の歳入総額と比べて財政調整基金がどのぐらいの割合になっているか計算したものです。少ない市で6.2%、多い市で22.1%となっております。

加茂市の平成29年度決算資料では、歳入総額117億9,281万9,000円に対しまして、財政

調整基金は87万2,000円ですから、歳入総額に対する財政調整基金の大きさは0.007%です。この基金を最低でも他市と同程度の額を用意したいと考えたなら、決算ベースの歳入総額の6%としても、7億760万円程度は必要という計算になります。加茂市は、経常収支比率が他市よりも高いことを考えれば、さらに積み増しておく必要もあろうかと考えます。この財政調整基金を確保するために、今後どのように対応されるのかお聞きいたします。

次に、中期的な地方債の償還について見ますと、こちらはまだ余力のある状態ではなかろうかと思われれます。地方債現在高は、平成21年度115億9,931万円であったものが平成29年度には97億8,973万4,000円に減っておりますし、実質公債費比率も平成21年度は13.3%であったものが平成29年度では12.3%となっております。この実質公債費比率については、法律上地方債起債の許可団体とされる18%をはるかに下回っています。また、この実質公債費比率が財政力指数に30を乗じて5を加えた数値を下回っていれば、基準財政収入額に算入されない留保財源で基準財政需要額に算入されない公債費、準公債費に係る元利償還金を賄っていることになるとする研究があります。こちらは、小西砂千夫先生の地方財政の基本書に載っているものです。これをもとに計算しても加茂市の財政力指数は0.422ですので、基準となる数値は17.66となりますから、加茂市の実質公債費比率12.3%はそれを下回っておりまして、いわゆる借り過ぎという状態にはないということになります。

以上のことから、加茂市の現在の財政状況としては借り入れをして投資を行う余力はあるものの、経常経費が限界までふえているため、公債費をふやすことができず、新たな投資は行えないという状況ではないかと考えます。今後も学校の耐震化工事や第四平成園の構想など、投資が必要な事業もあります。財政運営の基本方針について市長の見解をお聞かせください。

最後に、質問項目をまとめておきます。(1)としまして、経常収支比率悪化の原因とその対策についてお聞かせください。

(2)としまして、財政調整基金積み増しの方策についてお聞かせください。

(3)としまして、いわゆる借り過ぎという状況にないのか確認するため、平成29年度決算の中で基準財政収入額に算入されない留保財源の額と基準財政需要額に算入されない公債費、準公債費に係る元利償還金の額をお聞かせください。

(4)としまして、平成29年度決算についての市長の見解と今後の財政運営についての方針をお聞かせください。

以上、壇上での質問を終わります。再質問は自席にて行わせていただきます。どうぞよろしく願います。

○市長（小池清彦君） 御答弁申し上げます。座って失礼させていただきます。

まず、経常収支比率とは何であるかということでもあります。分母が経常一般財源収入額、一般に入ってくる税金とか、交付税もそうですが、普通に入ってくる財源、これが経常一般財源収入額。分子が経常経費充当一般財源額、経常の使う金です。経常経費に充当する一般財源額でありまして、その比率をいうものであります。

次に申し上げなければならないのは、経常収支比率というものは極めてごまかしやすい、ごまかしても容易にはばれない数字であるということでもあります。これが大変問題でございまして、私が平成7年

に市長に就任した当時には、ほとんどの市町村が経常収支比率を実際より10%程度低くごまかしておりました。加茂市の財政当局も10%程度低くごまかしておりました。一遍ごまかすともうだめなのです。本当のこと言いたくても、10%も翌年高く出したら市議会のほうでこれ何だと、市民も何だということになりますから。そうすると、10%もごまかしたのは誰だと。そうすると、財政当局だなんていうことになっちゃって、今度は10%もごまかした以上懲戒免職である、そんなふうになりますから、もう一遍ごまかしたら次ずっと代々続いていく、担当者はごまかし続けなければいけないのです。そこで、私はそれを発見いたしまして申しました。ほかのまちも加茂市と同じような数字だから、恐らくみんなごまかしているのであろう、そして急に本当の数字を出したら一遍にばれるから、長年にわたってみんなで隠し続けているのであろう。私も元役人だから、こういうことが起こることもあり得るかと思う。だから、私は何やっているのだと、免職だなんていう、そんなことは全く言う気もなかったです。しかし、加茂市はごまかすのはやめよう、このたびの予算案からは従来より10%程度高い九十何%という本当の数字にしよう、市議会には私が説明すると、君たちに累を及ぼすようなことはしないと申しまして、市議会にありのままを申しましたところ、市議会のほうでは、わかった、今度からは正確な数字を出すのだなおっしゃってすぐに理解してくださいました。さすがは加茂市議会だと思いました。したがって、現在各市町村が発表している経常収支比率が本当に正確なものであるのか、正確な市町村もあれば怪しい市町村もあるのではないかと考えております。最後にこの各市町村の経常収支比率を全部掲げてありますので、どうか皆さんはそれをごらんになって、ここは怪しいのじゃないかとか、いろいろ御判断されるのがよろしいかと思えます。ごまかし方にもいろいろあると思うのです。10%とか大幅にごまかしているところもあるかもしれませんが、ちょこっとごまかしているところもあるかもしれません。加茂市より上に上がるのはやめようなんて言っているところも、これぐらいにしておこうなんていうところもあるかもしれません。何でごまかせるかという、これ一つ一つの経費の積み上げですので、膨大な経費の積み上げになりますので、中身出せと言っても出さずに済むのです。だから、当てずっぽうの数字言うたって、これは隠しおおせる数字であります。大体、これから申し上げますが、今どき経常収支比率なんていうものは、どうでもいいのです。じゃ、これが何をあらわすかということは今やもう誰も言えない状況になっているのでございます。それをこれから申し上げます。経常収支比率の分子である経常経費充当一般財源の分子の大きな部分を占めるのが人件費であります。今浅野議員も触れられましたかと思いますが、職員1人当たりの人口は加茂市は多いほうから県内で3番目で、122.9人です。その各市町村の表も今ここへつけてあります。要するに職員1人当たりの人口が多ければ多いほどその町は少ない人員でやっているということになるわけなのです。そうすると、加茂市は上から3番目ですから、大体似たり寄ったりが上において、三条市が一番上において、これは三条市大変です。あれだけ学校をつくっているのですから。それで、三条市は正規職員の数だけ見ると、なかなか非常勤が多いという話も聞きますが、それは別として正規職員の数だけ見ると三条市は一番少ないのです。その次が燕市で、その次が加茂市であります。県央はなかなかお互い、小西先生ですか、偶然ですが、県央はなかなか人件費をしっかりと削減しているところでもあります。加茂市もひところ333人いた人員が今二百二十何人ですから、333人から100人ちょっと削減したのですから、これはもうやむにやまれず、小泉内閣と安倍第1次内閣に猛烈にやられたからやむを得ずやったわけでもあります。したがって、多くのまちが加茂市よりはるかにこの1人当たりの人口の数は少ない

のです。すなわち、加茂市は行政改革が極めて進んだまちで、人件費が他市に比べて極めて少ないまちなのであります。その加茂市の経常収支比率が県内で一番高いということは、他市の出している数字の中に怪しい数字がある可能性を示しています。何をやったというたって大したことないのです、数字としては。人件費になるとどつ、どつという感じですから。だから、人件費が一番少ない部類の加茂市が経常収支比率が一番高いということは、常識的にあり得ないのです。大体経常収支比率なんていうものは各市町村似たり寄ったりであるのが常識的なのです。にもかかわらず、加茂市が断トツ高くて、あと表を見ていただきますと物すごく差があるのです。これは、どういうものかなということでもあります。

次に申し上げておきたいのは、経常収支比率というのは過去の日本の高度成長期、国の補助金全盛時代、何でも国から来る金は補助金で来ると、こういう時代の遺物であります。以前にも答弁しておりますが、これはいかに箱物や道路や下水道をつくるお金があるかを競わせる指標であったのであります。ところが、今はそういうことではなくなってしまったのであります。かつて国の補助金全盛時代では、すなわち何でも補助金で来た時代では、補助金は経常収支比率の分母にも分子にも入らないのです、なぜか。入りませんので、比率に影響はないのですが、今は、現在は補助金を大分廃止して地方交付税に算入するという時代になっております。すなわち、交付税算入であります。借金をしなさいと、そして何かやりなさい、返すときに国が借金の大体半分出してあげますよ、先ほど消防のあれなんかは70%、7割国が出してやりますよ、これが交付税算入であります。今度交付税算入になると、これが分母と分子、両方に入っちゃうのです。交付税算入の場合は、国から来るお金が交付税交付金という形で分母に入るのです。そして、公債費という形で分子にも入るので、それだけで経常収支比率を押し上げることになります。私わかりやすい例でいつも申し上げておりますのは、2分の1という値がある。2分の1の分母と分子にそれぞれ1を加える、同額を加えると、交付税算入がそうなりますから、3分の2になる。そうすると、2分の1と3分の2の間には猛烈な差ができて、3分の2のほうがはるかに高くなるわけであります。したがって、分母と分子に同額が加わっちゃう。交付税算入の金が分母と分子、両方に加えられますから、国から来る金が。経常収支比率は、それだけで猛烈に高くなる。したがって、経常収支比率が高いということは、いかに国からたくさん金をもらっている市町村であるかということを示す指標になるということになります。そこで、私がいつも言うのは、加茂市はなるべく自分の金は使わずに国の金を使って事業をやるのだと、私はいつもそう言っているわけであります。その結果が経常収支比率を高くするということになります。こういう時代においては、国からたくさんのお金をもらえばもらうほど、国のお金で仕事をすればするほど経常収支比率は上がるわけであります。

また、浅野議員の御質問の中でも触れておりますが、今は箱物等よりも市民生活に直結する経常費への需要が高まっている時代であります。福祉に力を入れれば入れるほど、市民お一人お一人のお幸せのために支出すればするほど経常収支比率は高くなるのであります。福祉に使う金は全部分子に入りますから、経常収支比率は高くなる。だから、今経常収支比率が高いのが悪だなんて言っているのは、昔の時代の言いぐさが残っているだけであって、経常収支比率が高いということは市民がそれだけ幸せなのだということに早く気づく市長は、私はいい市長だと思います。いつまでも気がつかなくて、経常収支比率高くするな、諸君頑張れなんて言っている市長は市民を不幸にする、これは紛れもないことだと思っております。

よくお考えください。浅野議員は、聡明でいらっしゃいますから、よくお考えくださいなんて言うの

は失礼な言い方ではありますが、一応。経常収支比率とは、文字どおり経常経費の収支の比率です。経常経費の代表格は福祉の経費です。福祉に力を入れるまちの経常収支比率は高くなり、福祉に力を入れずにたっているまちの経常収支比率は低くなります。

次に、さらに申し上げなければならないのは、経常収支比率の中に箱物や道路や下水道、こういうもの、あるいはこの間やった小中学校の冷房化、あの経費も全部一応経常収支比率の中に入るのは、本来おかしいはずですが。箱物とか今申し上げたようなものが経常収支比率の計算の分子に入るのは本来おかしい。しかし、今は何でも起債でやる時代ですから、これらの経費の極めて大きな部分が起債、借金によるものとなり、これらのいわゆる箱物の建設のための経費の極めて多くの部分が、起債になった部分が、経常収支比率の中に入ってしまっているのです。そうなりますと、経常収支比率は何だと、一体。箱物とか、そういう本来投資的経費に入るべきものが、最初やるときは投資的経費で計算しますが、今度は借金支払うときになると、本来投資的経費でやったものが全部経常収支比率の分子の中へ入っちゃって、経常収支比率の中に入っちゃうのです。そうすると、一体今や経常収支比率とは何ぞやと誰も答えることができない、こういう状況になって、ただ経常収支比率という言葉がひとり歩きして、経常収支比率が高いのは悪である、低いのが善であるなんていうたわごとがそのまま言われていると、こういう極めて珍妙な現象が起きているわけであります。

このことを前提に御質問にお答えいたします。最初に経常収支比率がふえることは、国からたくさんのお金をもらっているまち、福祉日本一のまちとして当然であり、よいことだと思っております。これを減らしたら、加茂市民はたちまち不幸になります。勘違いは全くいけません。経常収支比率は、財政運営の結果であって、これに拘泥してはならないものですが、具体的なことを申し上げますと、平成28年度の経常収支比率は97.4%、平成29年度は99.9%と、1年で2.5%上昇したわけであります。これは、先ほど来おっしゃっていることであります。どうしてそうなったか。要因として大きなものは、まず分母の要素である市税、具体的には法人市民税ですが、これと地方交付税が減ったことにより、分母全体で約1億4,000万円減少したのであります。この分母で減った1億4,000万円のうち1億円は、某企業から入る税金が1億円減ったせいであります。名前を申し上げるのは失礼ですから、申し上げませんが、某企業から毎年入っていた税金がこの年1億円減ってしまった。おい、どうしたのだ、これ、と私が申しましたところ、加茂市の市役所の関係諸公は、これ内閣の政策のせいですと、内閣がかなり税金を将来に繰り延べられる政策をとっちゃったのだと、だから各企業は節税に努めて一遍に税金余り納めなくなったのだと、市長、そのせいですと、そういうことを加茂市の諸公は言っているわけでありますが、とにかく某社から1億円加茂市に入らなくなっちゃったのですから、そういうことで減少したわけであります。

また、今度は分子のほうでも要素の1つである人件費で退職手当がふえるなどして、たまたま29年度は大勢退職して、退職手当がふえるなどして分子全体で約4,000万円増加したわけであります。分母で1億4,000万円減って分子で4,000万円増加したわけであります。これ加茂市の政策でこうなったのでは全くないです。分母において、税金と国から来る地方交付税、地方交付税はもう計算方式決まっていますから、それで1億4,000万減った。今度は、人間が余計やめて退職金などがふえて分子が4,000万円増加しました。これを何とかせいと言われても、全く誰も何ともできないものがあります。こうして分母が減って分子が増加したことによりまして2.5%上昇したものであります。

30年度は、地方交付税が昨年度より6,000万円ふえます。これも計算上そうなっちゃうのです。税収の1億円が影響してこういうことになるのですが、今度は昨年度より地方交付税が今年度は6,000万円ふえたほか、退職手当も減少する見込みですので、経常収支比率は下がるものと考えております。これは、たまたまそうなるという話であって、故意に経常収支比率を下げたら加茂市は福祉のまちでなくなります。

次に、財政調整基金積み増しの方策であります。これは逐次ふやす努力を続けるとしか言いようがありません。平成26年度の年にも財政調整基金が約400万円まで減少しましたが、平成27年度に400万円が今度は3,600万円となり、平成28年度に約4,000万円ふやして平成28年度には7,600万円までいったのです。400万円が2年後に7,600万円までいったのですけれども、ここの冬、昨冬の大雪に全部持っていかれてしまいました。何しろ前の年よりも1億4,000万円大雪で金が要ったんで、それに持っていかれたわけでありまして。幸い加茂市には他市に余りない土地開発基金が平成29年度末で1億4,000万円、また無借金で、借金のない宅地造成会計の繰越金が約7,600万円、その他財政調整基金以外の貯金的基金が約1,000万円、合わせて約2億3,000万円あります。この2億3,000万円のうち、大体この2億3,000万円、これを私のほうは見ながらやっているわけでありまして。この2億3,000万円をできればふやすように、余り減らさないように注意しながら財政運営をやっているわけでごさいます。これでやっていると非常に市民の皆様のお幸せのために大胆に金を使うことができるということになります。したがって、この2億3,000万円が、虎の子の2億3,000万円でありまして、このうち2億2,000万円を埋蔵金と言うてもいいと思いますが、この埋蔵金は大事にしてやっているわけでありまして。しかし、これに頼る前に何とか財政調整基金をふやせるように努めてまいります。

次に、平成29年度決算の中での、今度は経常収支比率とは全く違う話になりますが、御質問の平成29年度決算の中での基準財政収入額に算入されない留保財源の額と基準財政需要額に算入されない公債費、準公債費の額であります。平成29年度の基準財政収入額に算入されない留保財源の額は約6億6,200万円、基準財政需要額に、今度需要額のほう、算入されない公債費、準公債費の額は約7億700万円です。ただし、これはあくまで理論値であることは御承知おきください。

次に、平成29年度決算についての見解と今後の財政運営であります。まず、借換債を除く毎年の起債償還額であります。借換債を除く毎年の起債償還額であります。言うなれば起債償還額ですが、このうち交付税算入額を除く実質的な加茂市の負担額で申し上げます。交付税算入されて国の金が来る分は、起債を返す額からそれだけ見てくれるのだから、これは引かなければいけない。その引いた額で申し上げますと、平成29年度に比べ平成30年度は、先ほど申し上げましたが、約1億5,200万円減少します。また、平成31年度は平成30年に比べ、さらに約4,200万円減少いたします。合わせると約2億円楽になるのです、加茂市の財政が。平成29年度から平成31年度にかけて加茂市の実質的な負担額は合計約2億円減少します。すなわち、2年間で2億円財政が楽になります。これをあらかじめ見越したわけでありまして。これを見越して28年度から29年度にかけてさまざまな施策を私たちは実施いたしました。もちろん市議会の大変な御理解のもとに、市議会と一致団結してこのさまざまな施策を実施したわけでありまして。一番大きなものは、小中学校の冷房化であります。また、市営体育館の冷暖房化も、暖房もですからね、実施いたしました。そして、懸案だった病児保育園を建設いたしまし

た。さらに、北コミュニティセンターの建設にも着手いたしました。結局もう完成したわけであり
ます。さらに、市民バスの猿毛西加茂西部線の開設、これによって市民バス網が一応完成いたしまし
た。不燃物の収集日の倍増、これを倍にいたしました。市内小中学校の全教師にパソコンを提供いたしま
した。ここまでは予定の行動でありましたが、昨冬の大雪だけは予定外でありました。除雪経費が前年よ
りも約1億4,700万円も余計にかかり、1億5,000万余計にかかっちゃったのです。それで、財
政調整基金を充てざるを得なかったものであります。そのため、今後はお金をためる守りの体制とな
ります。もちろん守りの体制に入りますが、加茂市は攻めの体制に入ったり、守りの体制に入ったり、巧
みにやりながら現在までやって市民の皆様のお幸せを日本のトップクラスにしてきたわけでありま
すが、今度は守りの体制となりますが、守ってばかりいたのでは市民を幸せにはできない。守りの体制
入りながら攻めることもやらなければならないということでもあります。

次に、学校の耐震化と第四平成園について申し上げますと、葵中学校につきまして今年度耐震化の一
環として非常階段を更新いたします。文部科学省は、これを認める条件として校舎全体を耐震化するこ
とを求めてきました。葵中学校のI s 値は0.4で、直ちに耐震工事を行う必要はないのですが、これ
を受けることにいたしました。これに係る経費は、非常階段の建設費が2,500万円、そのうち加茂市の
負担額が1,607万7,000円。この非常階段とか、これから申し上げます耐震工事費は余り国から
来る金の率がよくないのですが、とにかく非常階段建設費が2,500万円、そのうち加茂市の負担額が
1,607万7,000円、余り国から来る金が多くないのに何でこれを受けるかということ、起債がきく
からなのです。借金をかけて、非常階段だと、後で申し上げますが、18年かけて返していけばいいの
ですから。それから、校舎の耐震工事は10年かけて返していけばいいということなのですが、問題は
返す金。返す金がどれだけ借金で認められるかどうかということなのです。これが市長の腕になるわけ
です。何としてもこれを国の補正予算の中に入れてもらえば、国から来る補助金以外の金は全額借金に
して、非常階段は18年、校舎の耐震工事は10年かけて返していけばいいわけです。これが普通な
なかそうならないわけなのです。それを私はいろいろ頑張って、大体全額起債のほうに持っていつて
きたわけです。今頑張っているのは、葵中学校の校舎の耐震工事です。この校舎の耐震工事を国の補正予
算、間もなく結果が出ますが、国の補正予算で認められるところへ持っていけば、国の補助金で来る以
外の金は全部10年かけて、もうこっちはもらいましたから、非常階段のほうはもうこっちは技術を
尽くして文部科学省は国の補正予算にしてくれましたから、だから非常階段のほうはもう全部起債にな
った。今度は、残る校舎の耐震工事費のほうを今努力しているところでありまして、間もなく結果が出
ますが、恐らくオーケーになるのじゃないかと思えますけれども、それを国の補正予算にしてもらえ
ば10年かけて返していけばいい。それならばできるじゃないかと、こういうことでもあります。私も初め
考えまして、これ相当な額です。2億2,500万かかるのですから。そのうち国はそれほどたくさん
面倒見てくれないのだから、これは。受けるかどうか考えたのですが、一生懸命出して国の補正予算に
してもらえば受けられるのじゃないかと、そういうことで受けることを決断した次第であります。これ
にかかる経費は、非常階段の建設費が2,500万円、そのうち加茂市の負担額は1,607万7,000
円、校舎の耐震工事費が2億円、そのうち加茂市の負担額は1億2,547万5,000円ですが、非常
階段の起債償還期間が18年、校舎の耐震工事の起債償還期間が10年であります。そこで、国の補正
予算で認められると国の補助額が全額起債となりますので……国の補助額ではないです。国の補助額以

外がです。ここに「以外」をつけていただきたいと思います。国の補助額以外が全額起債となりますので、現在その実現に努力しているところであります。これ交付税算入はないのだよね。(総務課長青柳芳樹君「校舎はあります」と呼ぶ)校舎が幾ら。校舎はあるね。(総務課長青柳芳樹君「はい。補正の場合50%。補助裏の50%交付税算入されます」と呼ぶ)非常階段は。(総務課長青柳芳樹君「非常階段も」と呼ぶ)も50%。(総務課長青柳芳樹君「はい」と呼ぶ)じゃ、この場合加茂市の負担額1億2,500万円は、これ純然たる負担額だと思ったけど。(総務課長青柳芳樹君「基準額が変わっていて、そんな感じになります」と呼ぶ)これ純然たる負担額だろう。(総務課長青柳芳樹君「はい」と呼ぶ)今総務課長が言っておりますのは、国の補助金が来るのが極めて少ないということなのです。というのは、この上限が設けられていて、文部科学省の関係は特に上限が設けられていて、国から来る補助額が非常に少ないのです。だから、残りの起債に対しては、残りは全額起債にはしましたから、そのうち半分は国が見てくれるけれども、全体として余り国の出してくれる額が上がらないと、そういうことを言っているわけであります。そこで、国の補正予算で認められると、国の補助額以外が全額起債となりますので、現在その実現に努力しているところであります。第四平成園につきましては、加茂市の起債償還額がさらに急激に減り始める平成38年度から加茂市の起債償還額が驚くほど減っていくのです。そうすると、物すごく加茂市の財政が楽になるわけであります。というのは、下水道の関係の金が急激に減っていきますので、借金返済が。だから、我々は平成38年度を見据えて上手にやっていけばいいということなのでありますが、この加茂市の起債償還額がさらに急激に減り始める平成38年度を見据えて、第四平成園についてですよ、また第四平成園建設の借入金の返済の据置期間が3年であることも考慮しながら、3年間余り返さなくてもいいことを考慮しながら、次の市長の任期であります平成31年から35年の間に構想を固め、できれば設計に着手するのが最良と考えております。できれば次の任期の間に設計まで入れればいいかなと思っております。要するに第四平成園であろうが何であろうが、全部将来の起債、借金でみんなつくって、長年かけて返していくわけなので、第四平成園は30年かけて返していけばいいので、その辺を見据えていつ始めるかと、こういうことになるわけであります。なお、加茂市は平成28年度から30年度にかけて全国で他市に先駆けて小中学校の冷房化を断行いたしました。これに刺激されて、国は全国で小中学校の冷房化を実施することにいたしました。これは、もう紛れもなく加茂市に刺激されて、文科省が恐らく安倍総理と菅官房長官に、これいいですぞと、このネタはいいですぞと言うたに違いないです。それで、2人とも、あ、これいいなというので全国でやることにしたのだと私は確信していますが、これに刺激されて、国は全国で小中学校の冷房化を実施することにいたしました。加茂市は、他市に先駆けましたので、国の補正予算をいただき、これはいろいろ苦勞してもらったのですが、国の補正予算をいただき、国の補助金が3分の1、残りは全て10年の起債で、その返す50%は国の金が交付税に算入されて国が負担するという有利な条件のもとに小中学校の冷房化を完了いたしました。小中学校の冷房化は極めて有利です。耐震工事なんか比べ物にならないほど有利なのであります。今度の国の制度は、今度は起債償還額の60%を国が負担する。加茂市がもらったのは、起債償還額の50%を国が負担する、10%を上回るようにこのたび国がしたのです。このたび多くの市町村が国から新しい国の補助を認められましたが、実際は校舎に対してのみであります。体育館は、どこのまちも入っておりません。そこで、加茂市はできれば来年度、31年度予算において、31年度予算に全小中学校の体育館の冷暖房経費約4億円を2カ年の債務負担行為、2カ年の債

務負担行為に何でするかという、これは御案内のように、31年度の補正予算で認められるとその年には余りもう使う期間が少なく、翌年、32年度に実行することになりますので、どうしても債務負担行為にしなきゃいかんのですが、体育館の冷暖房経費約4億円を2カ年の債務負担行為で計上し、新しい制度のもとで31年度の国の補正予算に計上していただくべく努力して、他に先駆けて小中学校の体育館の冷暖房化を完成できたらと考えております。体育館の冷房はもう極めて重要ですが、暖房も重要です。両方できるすばらしいエアコンを今市営の体育館にみんな入れました。あれをぜひ来年度予算で小中学校の全体育館に入れたいということでもあります。これは有利ですから、全部で4億円かかって市が出す金は1億3,000万円ぐらい加茂市が出せばよくて、あれが10年かけて返せばいいので、これは何としてもやるべきだと思います。今文部科学省は、そんなに国の金があるわけがないから、財務省に抑えられていますから、体育館は認めていないのです。しかし、加茂市は先駆けて校舎のほうをやっちゃったのだから、だから体育館をやる権利があるじゃないかと、こういうことでいろいろ国のほうに手を回したい、そのように思っております。

大体以上でございます。

○6番（浅野一明君） 御答弁ありがとうございました。若干再質問させていただきます。

まず、財政調整基金のほうからちょっとお伺いします。今御答弁の内容を考えますと、本年度、30年度と、あと31年度、それ以降起債償還額が減っていくので……

○市長（小池清彦君） ちょっと違うのです。この30年度、今年度と来年度において約2億円減るのです。そこから先は余り減らないのです。平成38年度ごろから急激に減っていくのです。だから、平成37年度ごろまではその2カ年かけて減った水準でいくというふうな感じで、さらに減ることは減りませんが、余り急激に減らない。そういう中でうまく財政運営をやっていくということでもあります。

○6番（浅野一明君） わかりました。そうしますと、今年度以降今までに比べて、今年度で1億5,000万円、あとは次年度で4,200万円減っていくと。なので、今までに比べるとその分は余裕が見れるということで、財政調整基金についても何とか積み増すように検討しますということだったので、そちらはそのようにぜひお願いしたいなと思います。この中で、加茂市はまだ財政調整基金以外にも宅地造成基金や、あとは土地開発基金があります。ありますとはいうものの、これやっぱり使うとなれば本当に最終手段の話だと思うのです。その辺は、答弁の中でもあったとおりでして、できるだけこれは使わないと。本当に大切な基金で、今まで企業誘致やそういったときにも大切に使われてきた基金なので、土地開発基金とかですね、だからこういった基金が万が一また減っていくとすると、本当に加茂市は苦しくなると思うので、ぜひ財政調整基金の積み増しのほう、その余裕が出る分ぜひできるだけ積み増せるようにしていただきたいなというふうに思います。

また、昨年大雪で全部持っていけませんでした。これ今後、どうしてもやっぱり加茂市は雪国ですので、大雪、ことしは余りそういった予報もありませんけれども、それでもいつ来るかわからないですし、あとは雪だけじゃなくて台風や雨風、そういったときもやっぱり災害が起きたときにできるだけ機動的に予算的な措置もできるようにしていただきたいと思うのです。そうすると、市長も当然こちらの答弁書の中で財政調整基金を積み増しをしますということでお答えされているので、今の87万円がちょうどいいとは全然思っていないと思うので、ぜひこれ積み増しをお願いしたいというふうに思います。どのぐらいの規模がいいのか、ちょっと市長のほうでどのぐらいの規模というのがもしあればお聞かせ願

たいんですが。さっき私ちょっと計算したやつだと7億円ぐらいが大体ほかの市町村と同じようなレベルかなと思うのですけれども、今のところ市長として金額的な、このぐらいは準備しておいたほうがいいかなというふうな目標というものはありますか。

○市長（小池清彦君） 今要するに名前が財政調整基金のものが八十何万円しかないだけの話でありまして、みんなそこへ寄せて財政調整基金にしていればそれでいいのですが。要するに加茂市の貯金が、貯金で見ただけの話なので、2億3,000万はあるということなのです。だから、ほかのまちが7億円あると言うた額に相当する加茂市の額は2億3,000万円だということでもあります。土地開発基金を持っている市町村はほとんどないのです。県央では加茂市だけなのです。では、県央でほかのまちはどうやっているのだと。これは、県央土地開発公社というものをつくってやっているのです。これが便利なのです。県央土地開発公社は幾ら借金してもいいのです。あれ年限がないです。どんどん借金できる。その土地開発公社でみんな土地を買っているのです。だから、土地買った金が表に出ないのです、加茂市以外の市町村は。みんな土地開発公社に買わせて、それは土地開発公社が借金したものなのです。それは、全然財政調整基金に影響していないのです。だから、いかにも財政状況いいように見えるのです。ところが、今度は国が最近注意してきたのです。いつまでも今のようなことすると、そろそろ土地開発公社が借りている分を全部分担して出せと言ってきたのです。それで参っているのです、県央の各市町村は。これ土地開発公社が借金した分を全部返させられたら軒並み市町村は破綻します。それほどのものです。加茂市は、それがいいのです。要するに加茂市は極めて真面目にやっています。真面目にやっていますからいろんなものが、いや、財政調整基金が80万になったとか、経常収支比率が一番高いとか、真面目にやっていますからそれが表に出てくるだけであって、実際は余裕のある財政であるということでもあります。

○6番（浅野一明君） その目標額で現在は2億3,000万という土地開発基金と合わせた金額とおっしゃっていましたがけれども、昨年のお大雪、除雪でかかった経費もかなり大きくて、やっぱり1億4,000万とかすぐ出てきてしまいますし、それ全額やっぱり今持っている土地開発基金とか、それを食ってしまうわけにはやっぱりいけないと思うのです。今後も積み増すというお話でしたので、それはそれとしてぜひ財政調整基金も用意しておいていただきたいなというふうに思います。

○市長（小池清彦君） 財政調整基金に逐次蓄えていけというのは、言うは簡単ですが、それじゃ私が質問して、じゃ小中学校の体育館の冷暖房とどっちにしますか。私はそっちをやりたい。小中学校の体育館の冷暖房を全国に先駆けて私はやりたい。それをやったら財政調整基金そんなたまるわけじゃありません。どっちをとるかという話なのです。恐らく市民の方々は体育館の冷暖房をとれとおっしゃるであろうと思います。

○6番（浅野一明君） これ最後に書かれた冷暖房のお話ありまして、その点今市長の御答弁の中で私はそちらを優先したいというお話でして、それについては私としてはこっちの財政調整基金を優先していただきたいなと。今これ初めてここで見せてもらったので、今の私の気持ちとしてはそういった気持ちでございまして、そこをでもどちらをとるかはやっぱりそれぞれの判断だと思うのです。体育館もやっぱり、今の教室に冷暖房つけたのを見れば生徒さん喜ぶし、やっぱり避難所とかで使うときにも絶対欲しいとは思いますが、今の私の考えではこの財政調整基金のほうにぜひ積み増しをしていただきたいなというふうに考えます。

○市長（小池清彦君） これ余りそんな深刻にお考えになる必要ないのです。平成38年度以降、猛烈に楽になるのだから、それまで適当に持ちこたえていきゃいいんです。やっぱりかなりやったほうがいいと私は思います。というのは、多少貯金が、そうならんように努めますが、マイナスになったってかまわないのです。マイナス14億になるまでは大丈夫なのです。どんなにひっくり返ったって加茂市の財政が、なるべくマイナスにならないようにします。しかし、貯金がマイナス14億になるなんていうことはあり得ないのです。だから、余り深刻に考えて加茂市民の幸せを犠牲にするような考え方は絶対すべきでない、私はそう思っております。

○6番（浅野一明君） 最後に一言だけ。加茂市の収入、入ってくるお金を市民のために使うというのは大変いいことだと思うのです。それをどんどん、どんどん貯金に回せという話でもないのですが、今回決算見ますとかなりぎりぎりな数字になっていると思うのです。なので、その辺のバランスを見ながらぜひ財政調整基金も残して行ってほしいなというふうに思います。

以上です。

○議長（森山一理君） これにて浅野一明君の一般質問は終了いたしました。

2時20分まで休憩いたします。

午後2時00分 休憩

午後2時20分 開議

○議長（森山一理君） 休憩を閉じ、会議を再開いたします。

一般質問、次。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（森山一理君） 3番、白川克広君。

〔3番 白川克広君 登壇〕

○3番（白川克広君） お疲れさまです。財政問題で緊張した後は、ちょっと緩やかに、生活に密着した質問を3点させていただきます。眠いかと思いますが、ひとつ我慢してよろしく願いいたします。

ため池について、まずため池の防災、減災対策についてでございます。ため池とは、農業用水を確保するために人工的に造成された池のことをいうものと理解しております。本来農家の生活や暮らしを守るためのため池が人命を奪ったり、生活や暮らしを脅かしては本末転倒であると考えております。大規模地震に備えた耐震対策を初めとする必要な整備が急務となっております。ため池の多くは、水利組合や集落などの受益者を主体とした組織によって管理されていると思いますが、農家戸数の減少や土地利用の多様化から、管理や監視体制の弱体化が懸念されているところであります。農林水産省では、本年7月の豪雨により小規模ため池での決壊が多発したことを受け、全国で8万8,133カ所のため池を対象に緊急点検を実施、新潟県内においても五千数カ所のうちの1,215カ所の点検を実施したと発表されました。加茂市においても何カ所か実施したと聞いておりますが、その実施状況等について質問いたします。

1点目は、加茂市に存在するため池の所在地と形態、要するに谷池とか皿池とか言われておりますが、その形態と総数。

2点目は、今回点検の実施体制、実施期間、実施箇所、そしてその実施結果はどうでありましたか。

第3点目は、点検対象選定の理由とそれも含めた今後の点検の実施方針はいかがでしょうか。

4点目は、現在作成中と言われておりますハザードマップへのこのため池の反映はいかがでしょうか。

次に、2つ目ではありますが、市民バス等公共交通機関における運転担当者の健康管理対策、事故防止対策について伺います。路線バス等公共交通機関による交通事故が相次いで発生し、大きく報道されました。公共交通機関による交通事故は、市民生活への直接的な脅威はもとより、発生地住民にも大きな脅威となります。これらの事故原因には、いわゆる無呼吸症候群と言われる健康問題に起因するものがあると指摘されております。加茂市においては、路線バス、スクールバス、美人の湯送迎バスの運行を初め、ヘルパーさんの活動など、日常的に公用車の運行が多く、運転担当者の健康管理が交通事故防止対策上、極めて重要となるのではないかと考えます。そこで、安全運転管理者と運行責任者である市長の見解等について何点か質問いたします。

1点目は、本年度の公務中における交通事故発生状況について。

2点目は、運転担当者に対する具体的な健康管理方策はどのようなことをなされておられるのか。

3点目は、公用車運転に対する内部規則等があるものかどうか、あればどのようなものがあるのか。

4点目は、安全運転管理者の責務と事故防止対策の具体的な取り組み状況。

5点目が運行責任者である市長としての事故防止に対する具体的な取り組み状況についてお聞かせください。

3点目の項目ですが、バラ園の充実についてでございます。バラ園を含む冬鳥越スキーガーデンの維持管理につきましては、行政当局の的確な指導のもと、極めて良好に推移しておりますことに地元民の1人としてまずもって感謝申し上げます。ガーデンの主要施設でもありますバラ園について、充実、拡大の方向で質問いたします。冬鳥越スキーガーデンに併設されているバラ園については、開設以来、関係者の御努力により2,000株を優に超える規模と景観を兼ね備えた県内でも有数の施設として定着しております。管理に携わっている皆さんの意見を聞いていますと、ガーデン正面右側の空き地、現在は耕作放棄地となり、雑草が生い茂っております、の購入も検討されましたが、折り合いがつかず、断念したという経緯がうかがわれるようであります。何とかこの土地を購入していただき、国道290号線から冬鳥越スキーガーデンとして一体的な開発、管理をすれば、さらなる集客力の増加も見込めるのではないのでしょうか。290号線沿線自治体の中でも冬鳥越スキーガーデンは家族で楽しめる手ごろで身近な観光施設として認知されており、芝生に花時計と、バラ園が人気を博しております。国道290号線を挟んで野球場や、民間施設ではありますが、ゴルフコースを中心とした複合型レクリエーション施設も整備中であります。駐車場は、十分に整備されております。空き地にバラを植栽して、駐車場からバラ園直結を目指した整備で観光の目玉としてはいかがでしょうか。

また、バラ園は3,000株以上で公益財団法人日本ばら会の認定が受けられ、専門誌への無料掲載もなされると聞いています。市長の見解を伺います。

以上で壇上からの質問を終わり、再質問は自席にて行わせていただきます。

○市長（小池清彦君） 御答弁させていただきます。座って失礼させていただきます。

初めに、ため池の防災、減災対策についてであります。まず、加茂市に存在するため池の所在地と形態及び総数についてであります。その前に、ため池については私も大いに実感があるわけであります。

私の在任中に、あるとき元狭口の、亡くなられましたが、藤田清さんから早朝に電話がかかってきました。市長、大変だと、我々のところのため池が水が漏れ始めていると、このままでいくと決壊すると、そういう電話がありまして、それで私は大急ぎで建設課諸公に連絡とりまして、そのとき今の和田下水道課長もいたと思うのですが、大変だと、もう大急ぎで見なきゃならんということで、私も飛んでいったと思うのですが、それで大急ぎでうちの建設課のほうで対応をして、補修すべきは補修したことを覚えておりまして、今でも、よく私は亡くなられた藤田さんのことを思い出します。非常に実感があります。

さて、ため池の形態は山間や丘陵地で谷をせきとめてつくられた谷池と、平地のくぼ地の周囲に堤防を築いてつくられた皿池、サラというのは普通のお皿の食物を盛る皿です。皿池に区分されます。何で皿池というのか、かっぱから連想したのかなと、冗談ですが、皿池というのです。所在地別では、下条福島地内に谷池が3カ所、これを泓というのです。3つあると3泓というのです。泓というのは、さんずいに弓を書いてその右にムを書く。だから、ヒロシさんなんていうときの「弘」の字にさんずいをくっつけたやつ、これをオウと読むのです。私のところへもらった原稿ではみんな3泓とか、6カ所は6泓とか書いてあったのですが、何となくちょっと我々普通の人間にはなじみがないので、みんな私が3カ所とか6カ所にさせていただいておりますが、正式には3カ所は3泓であります。そして、狭口地内に谷池が1カ所、上大谷地内に谷池が6カ所、中大谷地内に谷池が6カ所、下大谷地内には谷池が4カ所と皿池が4カ所あります。上高柳地内に谷池が1カ所と皿池が2カ所、下高柳地内に皿池が1カ所、長谷地内に谷池が1カ所、総数は29カ所、谷池22カ所と皿池7カ所であります。これは、大谷と高柳で圃場整備やりましたときに、ため池をしっかりと整備したわけなので、だから今申し上げましたように大谷とか、特に大谷にたくさんあります。高柳にも相当あるということでもあります。

次に、全国ため池緊急点検の実施についてであります。これは、平成30年7月豪雨で西日本を中心に多くの農業用ため池において被害が発生した状況を踏まえ、下流の家屋や公共施設等に被害を与える可能性のある全ての農業用ため池を対象として、今後の豪雨や台風等に備えることを目的とした緊急点検を本年8月末までに実施し、必要に応じて応急措置を講じるよう、農林水産省から都道府県を通じて市町村に要請があったものであります。このため新潟県は県全体で5,067カ所のうちの1,215カ所を点検対象と判定し、そのうち加茂市は市内29カ所のうちの10カ所が点検対象と判定されました。実施体制と実施期間につきましては、農林課担当職員1名が8月15日と16日に国の調査票により堤体、テイタイって堤の体と書く堤体、それから洪水吐、コウズイは洪水で、バキは吐くという、くちへんに土を書く洪水吐、それから取水施設、ため池内、堤体周辺の斜面とのり面について陥没や亀裂が生じていないかなど、18の項目について目視点検を行ったところであります。私は、1人はまずいと思います。極めて重要な調査ですから、2人で行くべきだと思います。2人で行って、よく相談しながら入念にやるべきである。これ1人が全部やったのだ。1人が8月15日と16、2日間かけてさっさと見たというのは余りよくありません。第一時期がよくありません。こんな暑いときやったら、行くほうももう疲れ果てて、いい検査はできません。国がこんな暑いときやらせたのですか。やっぱりもうちょっと涼しくなってから2人で行って、ゆっくりと時間かけてのんびりと、ある意味では楽しく点検すべきだと思います。そうしなかったらいい点検はできない、そのように思います。今後そのようにすべきだと私は思います。

点検の実施箇所は、下条福島地内の福島上堤と福島下堤、それから十万谷というのです。「十」という字に「万」という、「十万谷」と書いてジョマンタニ、それから狭口地内の堂ノ沢、上大谷地内の岩ケ入ファームポンド1と大谷ため池、中大谷地内の山本ため池、下大谷地内の与左衛門と菅ケ谷地、菅ケ谷地というのは菅原道真の「菅」に「ケ」という字書いて、「谷」という字を書いて、地面の「地」を書くのですが、菅ケ谷地と下大谷溜一の計10カ所で、いずれも形態は谷池であります。点検の実施結果は、10カ所とも異常は見当たらず、応急措置の緊急性は低いと判定いたしました。

次に、点検対象選定理由と今後の点検実施方針についてであります。県が点検対象を選定した方法につきましては、ため池位置情報（座標値）に県が保有する簡易氾濫解析プログラムを用いて、被害想定区域を設置し、これにグーグルアースを重ね合わせる、グーグルで出している地図、航空写真地図にグーグルアースを重ね合わせることで人家、公共施設の有無を確認し、ため池ごとに判定を行いました。なお、人家とは図面等から堤体直下被害想定区域内に人家、人家とは人が居住しているもので、休憩所、小屋、格納庫等、一時的な利用施設は対象外だとのことでありますが、要するに人家が1戸以上あることであり、公共施設とは図面等から堤体直下被害想定区域内に公共施設が存在する。公共施設とは小中学校、保育園、幼稚園、病院、社会福祉施設、鉄道等の公共施設でありまして、道路は含まないということですが、この公共施設が存在することです。この選定方法により、県が加茂市の10カ所のため池を点検対象と判定し、それに従って目視点検を行ったところであります。今後の点検実施方針につきましては、12月中に担当課で残りの19カ所のため池を点検したいと考えております。これも1人でやったのかもしれませんが、2人でやったほうがいいと思います。別に12月中にこだわることはないと思うのですが、1月になると雪が降り出しますので、雪がいっぱい積もりそうなほうからやれば1月にもできるのじゃないかなというふうな感じがいたします。

次に、現在作成中のハザードマップへの反映についてであります。これはケース・バイ・ケースの問題になるかと思えます。今つくろうとしているハザードマップは洪水が対象の中心でありますので、そこが崩れについてどの程度入れるか、この堤についてもどの程度入れるか、いろいろケース・バイ・ケースの判断になると思えます。

次に、市民バス等公共交通機関における運転担当者の健康管理対策、事故防止対策についてであります。まず、市が管理している車の台数であります。本庁に102台、美人の湯に3台、やっぱり福祉のまちですから加茂市介護・看護支援センターで65台。中身を申し上げますと、本庁で管理している102台というのはスクールバス31台、市民バス10台がその中に入っております。それから、美人の湯に3台、あと加茂市介護・看護支援センターで65台、この中には加茂福祉会が持っている6台も含んでおります。

初めに、本年度の公務中における交通事故の発生状況についてであります。本年度の交通事故は、11月末現在において8件であります。内訳は、市民バスの事故が1件、スクールバスの事故が2件、加茂市介護・看護支援センターの事故が3件、本庁の車で2件であります。市民バスの事故につきましては、4月17日の午前8時ごろに、市道穀町福島線の下興屋向地内において、対向車のすれ違い時にバスを左側に寄せた際、道路脇の植栽に左側ミラーを接触した物損事故であります。これが市民バスの事故であります。

スクールバスの事故につきましては、1件目が11月1日の午前8時ごろに、登校のために葵中学校

生8人を乗せたバスをバックでハンドルを切り返しながらか葵中学校の玄関に入れていく際に、左側後方のバンパーが校門の縁石に接触した物損事故であります。同乗していた生徒にけがはありませんでした。こういうふうな事故も全部この交通事故の中に入るわけであります。このスクールバスの2件目につきましては、11月15日の午後4時ごろに下条小学校の下校便として下条体育センター前の始発バス停に配置するため、バスを下条コミュニティセンター駐車場内にて方向転換するために、ハンドルを切り返しながらかバックした際に駐車していた市民の方の車の側面にバスの右側後方が接触した物損事故であります。駐車されていた車には搭乗者がおりませんでした。

加茂市介護・看護支援センターの事故につきましては、1件目が6月5日の午前9時ごろにホームヘルパーが市道岡ノ町線の岡ノ町地内を運転走行中に、一時停止線を越えて出てきた車、向こうが出てきたのですよ、車が当方の車の後方左後ろの側面に接触した物損事故であります。双方にけがはありませんでした。

加茂市介護・看護支援センターの2件目につきましては、9月4日に市内の訪問看護から帰庁した看護職員が午後4時ごろに職員駐車場に駐車した際に車両後部が損傷していることに気がついたものであります。運転していた職員も心当たりがないものであり、物損事故と思われます。

3件目につきましては、10月4日の午後2時ごろにホームヘルパーが加茂川左岸側の市道駅前加茂新田線を走行中、加茂川左岸を走行中、対向車のトラックとすれ違った際に車体に何かが当たった音があったため、確認したところ、フロントガラスにひびが入っていた物損事故であります。

庁用車の事故につきましては、1件目が6月15日の午前10時ごろの公務中に市道葵中脇線の矢立地内において、用務を済ませ、車を転回し、バックした際に車の左側前方側面部をブロック塀にすりつけた物損事故であります。

庁用車の事故の2件目につきましては、7月2日の午前11時ごろの公務中に市道専照寺裏線2号の中興野地内において、車を切り返すためにバックした際に車の左側前方側面部が電柱に接触し、損傷した物損事故であります。

次に、運転担当者に対する具体的な健康管理方策についてであります。加茂市におきましては、事業者として、正職員はもとより加茂市で雇用しておる市民バス、スクールバス及び美人の湯送迎バスの運転者、そしてホームヘルパー等の健康管理には十分に気をつけております。事業者として法定の年1回の定期健康診断を実施し、結果として医師から再検査の要請があれば、法定ではありませんが、再度の検査を受けてもらい、その全ての結果を事業者として管理しております。ホームヘルパーにつきましては、車の運転のためだけではなく、要援護高齢者や障害者のお宅に毎日訪問をするため、健康管理には日ごろから十分に気をつけているところでもあります。定期健康診断やストレスチェックのほか、毎朝のミーティングでは各自の体調確認も行っているところでもあります。

次に、公用車運転に対する内部規則等の有無についてであります。当市の職員につきましては、十分に交通安全を遵守した運転を心がけております。また、公務中の運転のみならず、通勤時の運転につきましても一般の交通ルールに従って安全な運転をするよう指導しているところでもありますので、内部規則等は特に設けておりません。次に、安全運転管理者の責務と事故防止対策の取り組み状況についてであります。安全運転管理者とは、乗車定員が11人以上の自動車を1台、もしくはその他の自動車を5台以上保有する場合に、道路交通法により事業所ごとに1人選任しなければならないことにな

なっているものであります。さらに、自動車の保有台数に応じて副安全運転管理者を選任することとなっております。本庁におきましては、総務課長を安全運転管理者に選任しており、公用車の安全な運転が確保できるよう努めております。また、そのほかに5名の副安全運転管理者を選任しております。安全運転管理者及び副安全運転管理者は、新潟県公安委員会が実施する法定の安全運転管理者講習を毎年受講し、安全運転に関する責務を認識するとともに、受講内容を職員へ伝達しているところであり、市職員に対しましては所属長が公用車申込書を確認する際には日常的に安全運転に対する声かけを行っております。また、宴席の機会がふえる夏と冬及び春秋の交通安全週間には定期的に、交通事故が多くなった場合などは随時、それから安全運転管理者として職員に交通安全に対しての注意喚起を行っております。市民バスの運転手に対しましては、朝の出勤時にはアルコール呼気を市役所の宿直員が確認をし、その後出勤する運転手は、運転手同士が対面でアルコール呼気確認を行っております。また、阿賀野市の自動車学校で、適性検査を含めた市町村運営有償運送等運転手講習を随時受講させております。

スクールバスの運転手に対しましては、運転者の体調管理については万全を期するよう日ごろから常々指導しているところではありますが、勤務日の当日に異常を感じ、運転に支障が出ると判断した場合はすぐに教育委員会に連絡をもらい、かわりの運転手を手配することとしております。また、抜き打ちでのアルコールチェックを年に数回程度実施しております。その日の運行前に呼気を市販の検知器に吹きかけてもらい、基準値以上のアルコールが検知された場合は、最低でも午前の運転は禁止するという方法であります。また、年に2人程度ではありますが、独立行政法人自動車事故対策機構新潟主管支所から、運転適性診断を実施してもらっており、事故につながりやすい心理的な特性や体の働きを運転手自身が把握するようにしております。

加茂市ホームヘルプステーションでは、事業所が所在する特別養護老人ホーム第二平成園とあわせて安全運転管理者等を選任することになっており、安全運転管理者に第二平成園職員1名、副安全管理者にホームヘルパー3名を選任しております。安全運転管理者と副安全運転管理者の職員は、新潟県公安委員会が毎年開催する安全運転管理者等講習を受講し、その責務を認識するとともに、受講内容を他職員へも伝達しているところであります。なお、加茂市ホームヘルプステーションでは独自に交通安全プロジェクトチームを設置しており、内部研修会を開催したり、市内の交通事故が発生しやすい場所や気をつけて運転すべき場所のマップを作成し、周知しているところでもあります。また、朝のミーティング時にホームヘルパー全員による交通安全の唱和を行うなど、交通ルールの遵守や安全運転の意識を高めるための対策に取り組んでおります。

次に、運行責任者である市長としての事故防止に対する具体的な取り組み状況についてであります。加茂市におきましては、市民バス、スクールバス、そして美人の湯の送迎バスと多くの乗客を乗せる事業を展開し、日本一の福祉のまちとして市民の皆様から大変喜んでいただいております。バスは、多くの方々に利用していただくものでありますので、運転手につきましては運転に熟練し、交通安全を十分に熟知している者を選任しております。つまりバスの運転手については、高い信頼を置いて選任しているわけで、交通事故、とりわけ人身事故を起こしたときは、お客様の命を預かる者として、過失が重大な場合には勤務停止処分、平成15年の美人の湯バス事故では1カ月半の出勤停止とその間の賃金なしという重い処分をいたしました。平成23年と平成29年のスクールバス事故では、1カ月の出勤停止とその間の賃金を半減、こういった勤務停止処分といった厳しい処分を科しております。これは、本人

がかわいそうなのですけれども、ここを厳重にしないと大変なことが起きるおそれがありますので、私は心を鬼にして厳重な処分をいたしておるわけでありまして、このように厳しい処分を科すことで運転手相互に交通安全の意識を高めてもらい、再発防止につなげているわけでありまして。

次に、バラ園についてであります。冬鳥越スキーガーデンにありますバラ園は、平成15年にオープンし、ことしで16年目を迎えました。これは、私の思いつきでつくったものでありまして、もちろん市議会から予算を認めていただきましたけれども、それで今日まで来たのですが、これ以上上げると金がかかってかなわんです。やはりそれぞれ限度がありますので、あれぐらいでとめておかないと、要するに財政調整基金もつとためろというようなことでありますので、あれはあの程度で上出来かなと、維持運営しておられるあの高重園さんがしっかりやっておられるので、あそこまで来ましたけど、しかしかかるものはかかるのです。それと、お金取るわけにいかないのです。いや、取ったらいいじゃないかと言う人もいますが、お金はちょっと取れないです。何でバラ園にしたかという、五泉がすばらしいボタン園を持っていて、ボタン園にするわけにいかないの、じゃバラかというようなことでやったわけですが、あのバラ園大変有名で、この辺では最大規模のものでありまして、大勢の人がおいでになります。あの程度でやむを得ないかなという感じはあります。

冬鳥越スキーガーデンにありますバラ園は、平成15年にオープンし、ことしで16年目を迎えました。約150種、2,700本のバラが咲き誇る県内でも有数の本格的なバラ園であります。入場も無料であり、毎年大変多くの方々が市内外から訪れております。冬鳥越スキーガーデン全体の土地につきましては、平成12年に当時の蒲原産業と蒲原鉄道、両者が持つておられたのですが、両者から声がかかってきまして、大変いいチャンスだと思ひまして土地を購入いたしまして、蒲原鉄道のそうした電車、車両も置くことになりまして、電車、車両を設置、その後バラ園を平成14年から15年にかけて緊急雇用創出事業を使い、整備してまいりました。要するに極力国の金で何でもやるというのが加茂市の方策なんで、当時緊急雇用の金が大量に来ましたので、それを使ってバラ園をつくったわけでありまして。

議員の御質問は、冬鳥越スキーガーデン正面右側の現在荒れ地になっている民地を購入して、バラ園と一体の整備をしてはどうかという御提案であります。なかなか難しい土地でありまして、当時用地買収をお願いしましたが、御賛同いただけなかった経緯があります。この土地は、バラ園にすべきものではなく、駐車場にすべきものと思います。そうしますと、駐車場、今でも非常に大勢人がおいでになる日には手狭でありますので、あそこはやはり駐車場にすべきであろうと。そうしますと、大体今の駐車場と、それから無理して買ったちょっと離れたところの駐車場があるのですが、それとこれを駐車場にすると大体一帯としたような、地続きみたいな駐車場になります。ただ、残念ながらあそこに携帯電話の鉄塔が建っちゃってありまして、その点はちょっとぐあい悪いのですけれども、駐車場にすべきものと思います。所有者がお売りになる気があれば、財政の余裕のあるときにこの土地を買うのがよいと思います。冬鳥越スキーガーデンには、バラ園のほかにも直径20メートルの日本一の花時計や、これがどなたかが私に御提案なされたのです、市民の皆様の中で。それで、私はこれいいじゃないかというのでこれに乗ったのですが、いまだにどなたの御提案だったかがわからないのでございます。私は、大体こういうことを提案しそうな人、天才的発想を持っているように思われる人に声をかけるのですが、その中には森山議長さんもおられまして、この人なら提案しそうな感じだと思って御本人に聞いてみたのですが、いや、俺ではないと、こういう、失礼な言い方ですが、お話もありまして、いまだに私にあ

の花時計を提案した人が見つからないのですが、あれは規模は日本一でございます。直径20メートルの日本一の花時計や市の文化財でもあります。鉄道車両モハ1、モハ61、電気機関車ED1などさまざまな施設があり、休憩ができるロッジウェーデルンもあります。冬にはTバーリフトを設置し、本格的にスキーを楽しむこともできます。まずは、冬鳥越スキーガーデンにある各施設をしっかりと管理運営することが大切だと考えております。

以上、御答弁申し上げます。

○3番（白川克広君） それでは、再質問ということで何点かお願いをいたします。

ため池の問題につきましては、もう既に市長のほうから実施体制、実施時期、あるいは今後の対応等については事細かに説明がございましたが、ぜひその方向で、いかにも国、県がやれと言ったからおつき合いでやりましたと、この盆の真っ最中に1人でやるというのは私もどうかと思います。実態のない調査じゃないかというふうに思いまして、今後継続的に、実際長谷地区のため池を見ますと、やはり人家と密接な距離ではないにしても、特に上大谷の一番奥にある、こっちから行って県道の左側にある谷池については、まさにあれが決壊いたしますと、その直下に住家がございますので、極めて大きな被害が発生します。そういった形で直近とか直前、直後ではなくて、やはり住宅のある、地形的に住宅の上位にあるところをやはりもっと真剣に点検をお願いしたいなと思います。

○市長（小池清彦君） その谷池は、点検の対象にならなかったのですか。とにかく国の方針で県が決めることにしてありまして、それはそれでいいと思うのですが、県が県内一律に決めるわけですから、それでいいと思うのですけれども、それがもし事実なら県ももうちょっとしっかりしてもらわないと困るという感じはいたします。

○3番（白川克広君） そういう形で、やはり市としても主管課を中心として地元の管理団体等々と歩調を合わせてよろしくお願ひしたいと思います。

それと、最後に書いておりますが、ハザードマップへの反映はケース・バイ・ケースというお考えのようですが、この点検、実施に際して国から出された通達にはハザードマップへの落とし込みが要求されているのじゃないでしょうか。ため池の位置をハザードマップに落とし込みなさいということになっておりませんでしたでしょうか。

○市長（小池清彦君） ハザードマップは市長がつくるのですが、それぞれ目的が、まずは加茂市がつくろうとしているのは洪水中心のハザードマップなのです。だから、そういうわけでありまして、そのほかにかげ崩れとか土石流中心のハザードマップもあるし、ため池中心のハザードマップもあると思いますが、ため池は洪水と直結しておりますので、当然浸水想定区域図の中に入っていないといけないのですが、県の案をもらっているのですが、県が自分でつくったのじゃないのです。コンサルタントに依頼してつくった浸水想定区域図、今私どもは点検しておりますが、その中に載っていなかったようであると言っておりますが、浸水想定区域図、私どもが今点検しておりますので、県のほうはどちらかというところとわかったかと、これで承って、これをもとにハザードマップつくれというような感じではありますが、私のほうはそれは違いますぞと、その浸水想定区域図そのものを点検してもらわなきゃ困ると。現に私が前点検して、これは大変に変なものだということにまずは気がついたのですから。前に出してきた浸水想定区域図は、信濃川のかさ上げする前の状態での浸水想定区域図で、こんなもの何の役にも立たないかということで、ああ、そうだねということになったことがありまして、なかなか県が示した

からというて、天の声ではないのです。ため池を見落としている可能性もあります。どっちみち今私も点検していますので、それは念頭に置きたいと思いますが、ただため池を入れろとか、そういうようなことは国のガイドラインにはないのじゃないかなという感じはいたしますが、国のガイドラインにあらうがなかろうが浸水想定区域図を我々は今点検中でありますから。このため池危ないじゃないかというのであれば、入れなきゃいかんだろうと、そういう感じはいたします。

○3番（白川克広君） ありがとうございます。

次に、事故防止関係でございます。まず、ことしに入っの総数は11月末現在で8件ということでありましたが、きょうも専決の報告の中に、専決15番で発生が8月31日の事故で、走行中の車内で頭部打撲挫傷という亀山さんのこれが入っておりますが、これはバスでよろしいわけですか。

○総務課長（青柳芳樹君） 交通事故というよりは、スクールバスを借りて健康課の事業を行っていたのですが、その車内、車の中でカーテンレールが脱落しまして、それが頭に当たったという、そういう事故内容でございます。

○3番（白川克広君） わかりました。それじゃ、交通事故ではないということであります。

次に、私が一番懸念しているのが市民バスの運転手さんが従事する前にアルコールチェックを受けますとありました。しかし、その実施する人が当直員だというふうになっておりましたけども、例えばそのときに、次に書いておりますスクールバスの運転手さんの場合は、アルコールチェックの呼気検査でチェックをして、その場で出た場合は午前中勤務させないというのが答弁にありました。それと同じような対応をとるべきじゃないかと思うのですけども、例えば当直員の方で朝5時台、6時台から市民バスが運行されておりますけども、その運転手さんが例えばちょっと、おい、におうぞというのがあった場合、具体的な取り扱いはどのようになるのでしょうか。

○市長（小池清彦君） 前福祉事務所長が答弁すると。今の福祉事務所長はなつたばかりなので、前福祉事務所長は長年ずっと手がけてきましたので。じゃ、前福祉事務所長、総務課長に答弁させます。

○総務課長（青柳芳樹君） 市民バスの運転手が朝5時台か6時台ぐらいに早い人は来るわけですけども、そのときに、先ほどの答弁のとおりで、宿直室に鍵をとりに行くということが必要になります。そのときにどっちみち宿直の人と顔を合わせる関係で、そこでアルコールのにおいがかげるじゃないかということで、そこをアルコールチェックの関所にしております。そこで、実際にアルコールがにおったということがあれば、その場で宿直からアルコールがにおうということを本人に伝えてもらいまして、本人が、運転手の中で一応代表みたいな人がいます。運転の、いついつ誰がどこを運転するというのを割り振る担当の人がいますので、そちらに電話していただいて、アルコールが出ちゃったので、きょう運転できないということでその人から誰か、その日休みの人は何人かいますので、その人に電話をしてもらってかわりの運転をしてもらおうというような仕組みにしております。

○3番（白川克広君） 宿直員というのは職員だけではないですね。

○市長（小池清彦君） シルバー人材センターでこの任にたえるという人を選んで、シルバー人材センターの人たちが一晩中詰めておりますが、私もよく市役所へ、例えば市議会の答弁書作成なんかになると夜中までかかることがあるので、そういうときとかいろいろ市の諸公に、市役所内にいる市役所の職員に連絡とることがあります。そのときの対応は実に立派ですし、私もしょっちゅう見ておって、適任の人をシルバー人材センターは選任しているなど、渡辺事務局長はしっかりやっているなというふうに

見ております。その人がまずもってきちっとやるということで、それ以外方法はないと思います。最良の方法であろうと思っております。

○3番（白川克広君） 趣旨は、よく理解しているつもりでありますけれども、やはり我が身に降ってかかるものではないという立場がまずあると思うのです、シルバーさんであっても。したがって、そこで若干においがするからと、市の職員となるとシルバーさんが運転担当者に対して果たしてどこまで本気で言えるものか、まずそれが疑問であります。そして、さらにせつかくスクールバスのほうでアルコール検知器、息を吹きかける検知器を使っていると答弁されております。これを当直に備えつけてはどうかのでしょうか。そうしますと、もう数値的に必ず出ますので、誰が見ても明らかな判定になると思うので、それを示せば本人も納得すると思うのですけれども、いかがでしょうか。

○市長（小池清彦君） ちょっと私はそれやっているものと思って答弁していましたので。それやっていないということであれば、それはやらなきゃだめでしょう。それはやるようにいたします、呼気かけるやつ早速買って。幾らしてもそれはちゃんと買って、87万かもしれないけれども、ちゃんと買ってやらなきゃいかんと思います。

○3番（白川克広君） ぜひこれやっていただきたいと思います。人の判断というのは一番当てにならないものでありますので、機械がしっかりと検知しますので、必ずお願いいたしたいと思います。私は、それが管理者のまず第一の責務じゃないかと思います。具体的な数値をもってデジタルに対応するというのがやっぱり今これから求められるものだと思いますので、よろしくお願いいたします。

そうすると、当然スクールバスのほうにも検知はしていないということですね。

○市長（小池清彦君） スクールバスのやつは。（総務課長青柳芳樹君「年に数回」と呼ぶ）

○3番（白川克広君） 始業時ではなくて。就業時ではなくて年に数回のアルコールチェック、意味がないじゃないですか。

○市長（小池清彦君） 抜き打ち検査だそうで、これなかなか、白川先生は専門家でいらっしゃいまして、警察的立場から見ればそういうことなのですが、人間前の晩深酒すると翌日におう人多いのです。そうすると、なかなか運転手諸公も大変でしょう、これ。そうすると、前の晩酒飲めなくなっちゃうのです。大体前の晩酒飲むともう出ちゃいますでしょう。どうでしょう。そうすると、運転手のなり手がなくなるかもしれない。なかなかこれ。（「量の問題。いっぱい飲まねばいい」と呼ぶ者あり）しかし、私にそうせいというのはいとも簡単にできますが、普通の人に簡単にできますか、それ。（「仕事はね」と呼ぶ者あり）

○議長（森山一理君） 静粛に。

○市長（小池清彦君） なかなか、ただ仕事とはいいながら大体毎朝だから。どういうものでしょう。（「常識あって、前の日、酒、深酒いっぱい飲まねば」と呼ぶ者あり）いや、だから1日ぐらいいいけれども。（「いや、運転する人の常識……」と呼ぶ者あり）

○議長（森山一理君） 静粛にお願いします。

○市長（小池清彦君） そうなのですが、一般の人がそんなことしていますか。なかなか難しいです、これ。だから、答弁に窮します、これ。あれがどの程度出るものか。大体前の日ちょっと酒いっぱい飲むともう出てしまうのですか。難しい話です、これ。

○議長（森山一理君） 3番、白川克広君、あと3分。

○3番（白川克広君）　そういうこと言っているのじゃなくて、やはり運転される方は365日運転するわけじゃないと思うので、そのときはやっぱり控えてもらおうと。それで、大体体内に残るのは、個人差によりますけども、一般的には12時間は絶対にもう抜けるというふうには言われております。もちろん量によります。ただ、においがするから数値が出るというものじゃありません。においがしなくても数値が出る人がほとんどなのです。それで、事故があつて検知すると数値が出ていて、酒気帯びと事故という形になるものですから、危険運転何とかかんとかという形にもなってくるのです。だから、においだけでははかり知れないのです。したがって、先ほど来言っているように検知器というのが必要になってくるということをお願いしているのであつて、ぜひその方向で検討をお願いしたいと思います。

○市長（小池清彦君）　大体365日と思えばいいのです。それで、大変だなと今思っているわけであります。新潟交通とか、その辺はどんなふうになっているのか、まずは調べてみて考えたいと思います。

○議長（森山一理君）　3番、白川克広君、あと1分。

○3番（白川克広君）　最後に、バラ園の関係でございますが、高重園さんのバラ園の担当者、花時計、芝の管理を担当している、もう長年にわたってバラの育成に対して一から、たまたま村松にバラの先生が、博士がいられたということで、そこに師事されまして、土づくりからとにかく冬鳥越のあのバラ園の第一歩からやってこられた方に聞いた話で、非常に感謝しているという市の対応については物すごくありがたいことだということで、今後もひとつ力を入れてやっていくので、よろしく伝えておいてくださいという伝言もいただいております。私も極めてそのとおりでと思います。ただ、若干あそこの荒地が草ぼうぼうになっているものですから、景観的に極めてまずいことになっておりますので、購入されないのであれば、ちょっと雑草を刈るとかということでよろしく願いをして質問を終わります。

○議長（森山一理君）　これにて白川克広君の一般質問は終了しました。

3時40分まで休憩いたします。

午後3時21分 休憩

午後3時40分 開議

○議長（森山一理君）　休憩を閉じ、会議を再開いたします。

一般質問、次。

〔事務局長 質問要旨 朗読〕

○議長（森山一理君）　16番、安武秀敏君。

〔16番 安武秀敏君 登壇〕

○16番（安武秀敏君）　こんにちは。YO1998の安武秀敏でございます。きょう最後の質問者でございますので、よろしくお願いいたします。

最初に、加茂市史編さん事業の問題点について質問します。9月19日、市政だより5月号と6月号の配布があり、6月号に加茂市史資料編5民俗が好評発売中と広告がありましたので、加茂市史編さん事業について質問いたします。2001年12月、加茂市史編さん委員会発行のレポート加茂市史創刊号で、これです。加茂市史の刊行計画は資料編、通史編、地域の歴史編を平成18年度までに全部で8冊の刊行を予定しているとあります。市史編さん委員会発足から20年、また刊行終了予定から10年もおこなっています。刊行計画がずさんだったのでありませんか。加茂市史レポート創刊号は、加茂市の

市章がトップに明確に表示されていますが、一連の市史には市章の表示が薄く隅のほうにあり、不自然であります。これは中央にあります。理由をお聞かせください。

創刊に当たって会長である市長は、市史編さんで重要なことは、1、学問的批判に十分たえ得るものであること、2、それぞれに古い伝統と歴史を持つ加茂、上条、下条、七谷、須田の各地域の歴史を詳細に記述したものであることとあります。加茂新田や狭口もあります。どうして上条が出てくるのでしょうか。

資料編5 民俗は、民俗を取り上げています。当然無形民俗文化財が最初に紹介されてしかるべきであります。無形民俗文化財は、青海神社の御粥神事と鎮火祭であります。本文中にも付録のディスクにもありません。学問的批判にたえ得るのでしょうか。

資料編5 民俗の本文中にもグラビアにも青海神社や同神社のおみこしの写真がありません。長瀬神社のおみこしがグラビアの最後のページに全1ページを使って載っております。他のグラビアの写真は、4分の1ページか2分の1ページでモノクロであります。どうして長瀬神社のおみこしだけカラーで1ページの特別扱いなのでしょう。

付録ディスクは6枚あります。長瀬神社関係が多く、付録ディスク4のDVDは長瀬神社の神楽を平成26年に収録したものであります。購入した職員が私物化だと言っております。レポート加茂市史創刊号で各地域の歴史を詳細に記述したものであることとおっしゃっておりますが、神楽は青海神社は言うまでもなく、男山八幡宮、天神林の天満宮、後須田の諏訪神社等々にもあります。全てを記述するのが公平であり、学問的批判にたえ得るものであります。加茂市史資料編5 民俗の発刊を広報かも平成29年9月ナンバー735では2ページを使い、平成30年6月号ナンバー744では1ページを使って広告しています。広告ならお知らせ版に載せるべきであります。広報かも平成29年9月号及び平成30年6月号の資料編5 民俗の広告にグラビアにはない青海神社の御神幸の写真があります。改ざんのでしょうか。

今回発行した資料編5 民俗の発行部数、収支はいかがでしょうか。

刊行事業委員会発足から20年経過し、刊行終了予定から10年以上もおくれています。編集委員、また関係者も高齢化し、死亡する人もいて、事業の推進が困難になります。原稿化は、終了しているのでしょうか。

次回発行する市史は、市章の表示を明確にできないのでしょうか。調査、掲載に長瀬神社関係が極端に多く、学問的批判にたえ得るものではありません。付録ディスクを改めて公平に収録し、購入者に差しかえをしてはいかがでしょうか。

長瀬神社の御神幸の説明はありますが、青海神社の御神幸の説明がありません。追加収録をしてはいかがでしょうか。

次に、加茂山公園入り口のトイレについて質問いたします。加茂市の観光の中心である加茂山公園の入り口にあるトイレに大木がもたれかかり、大木の重さに耐えかねて屋根や壁が破損しています。頭上注意と注意を喚起していますが、加茂市の面子と事故防止のため、抜本的な対策が必要ではありませんか。

以上質問いたしまして、再質問は自席で行います。よろしく願いいたします。

○市長（小池清彦君） 御答弁申し上げます。座って失礼させていただきます。

初めに申し上げたいのは、このたびの加茂市史の5冊の既刊、今まで5冊出ております。この既刊は、溝口敏麿先生を監修者として、大勢の執筆者の方々が執筆、編集された学術的なものであります。したがって、私が執筆、編集したものではありません。したがって、中身について私に聞かれるのはお門違いであります。私を会長とおっしゃいましたが、私は市長であってこの刊行の会長ではありません。しかるに、あなたは上条を攻撃し、盛んに長瀬神社を冒瀆しておられる。そんなことばかりしておられると、いずれは神罰が下るのではないかと気がかりであります。いずれにいたしましても、既刊の加茂市史5巻は私が執筆、編集したものではないので、私の答弁は監修者と執筆者の見解を代弁しているだけのものであります。とにかくそういうことで御答弁申し上げます。

まず、加茂市史編さん事業の刊行計画についてであります。加茂市史編さんは、資料編6巻、通史編2巻、地域の歴史編1巻の全9巻を刊行することとし、平成11年2月に始まった事業であります。議員御指摘のとおり、当初は平成18年度に刊行を終了する計画でありましたが、私はその記憶は余りないのですが、事務方はこう書いておりますので、読むのであります。当時は平成18年度に刊行を終了する計画であったらしいのですが、おかげさまをもちまして市民の皆様から多くの文献を御提供いただき、その上貴重な体験を証言されたり、舞踊、芸能といった長年の修練で培われた技能を披露していただくなど、予想を上回り、多方面の資料を集めることができました。集まった資料をなるべく市史に反映するため、市議会からも御理解を賜り、必要な予算措置を柔軟に重ね、調査と編集、執筆に努めてきたものであります。本事業で大切なのは、早く速やかに刊行することよりも、時間をかけてでも後世のかがみとなるすぐれた内容を盛り込むことだということであります。

次に、市章についてであります。加茂市史資料編には、堅牢な上製本の表紙の左肩に市章を押してあります。資料編の編集に当たり、多くの市町村史を参照し、表紙の市章についても表示するところのないところがあり、検討を重ねた結果、左上に入れるのがよいと判断したとのことであります。例えば平成7年度に全8巻の刊行を終えた長岡市史、平成16年度に全21巻の刊行を終えた上越市史の場合も市章の位置は加茂市史と同じ左上であります。また、昭和57年度に全10巻の刊行を終えた三条市史、平成9年度に全19巻の刊行を終えた新潟市史は、表紙を含む一切に市章を押さずに刊行されております。市章をあらわすか否か、その位置をどうするかはデザインの問題であると認識いたしており、本質的には市章よりも中身が大事であると考えたとのことあります。

次に、加茂市史編さん事業で私が述べた挨拶文についてであります。私が当初から申し上げ、既に刊行された資料編1から5までの巻頭に載せた挨拶文で強調してまいりましたのは、1、加茂市には歴史的な資料によって裏づけられ、資料編を備えた学問的な批判にたえ得る市史がまだ出されていないこと、2、加茂市は加茂、上条、下条、狭口、加茂新田、七谷、須田等の地域が一緒になったまちであり、それぞれの地域の歴史も大切にされなければならないこと、3、特に地方における歴史書はそれぞれの時代にその地域に住まった民衆がどのように生活し、行動してきたかを明らかにするものでなければならないことの3点であります。これらの点について、これまで刊行してまいりました5巻の資料編の挨拶文で繰り返し強調してきたところあります。私が言わんといたしましたのは、加茂市を構成する全ての地域の歴史を大切にすることです。

次に、資料編5民俗の中で青海神社の御粥の神事と鎮火祭が紹介されていないとの御指摘についてあります。この2つの神事は、長瀬神社の御粥の神事、鎮火祭とともに資料編5民俗の684ページか

ら686ページに紹介してあります。なお、加茂市史編さんは全9巻の紙幅を費やし、加茂市の歴史を多角的に明らかにすることを目指した事業であります。議員御指摘の御粥の神事や鎮火祭は、今年度の刊行を計画している資料編6文化財でも扱われる予定で、その後出される通史編等でも掲載や言及がされるものと思います。

次に、同じく青海神社と長瀬神社のおみこし、御神輿等の掲載についてであります。青海神社の御神輿は、御神幸で担がれ、出御されるものであります。青海神社の御神幸については、資料編5民俗の674ページから678ページの5ページを使って詳述し、写真も4枚載せてあります。また、付録DVDのディスク1に収録した加茂三社祭典は大正8年の撮影で、3基の御神輿を含む御神幸の様子が映っております。同じく資料編5のグラビアには、議員御指摘の長瀬神社の六角神輿などと並んで、青海神社御神幸の乳母行列の貴重なモノクロの古写真を載せてあります。カメラやカラー写真が余り普及していない時代の記録だからこそ、歴史や民俗では貴重なのであります。長瀬神社のみこしは、方々にあるみこしと違って全国でも珍しい重い六角神輿なので、グラビアに載せたとのことであります。

次に、付録ディスクの内容と神楽についてであります。神楽は、長瀬神社神楽だけでなく、議員御指摘の青海神社神楽11舞、天神林天満宮神楽14舞、後須田諏訪神社神楽12舞の全てを写真と解説で紹介しております。上下条の男山八幡宮につきましても、古い資料から盛んだったころの写真を見出し、新たに藤田宮司さんのお宅に伝来する面を撮影して載せるなど紹介に努めております。

資料編5の付録についてであります。溝口敏磨先生を監修者とする加茂市史編集委員会の当初の案では、付録は1枚だけで、DVDとする計画でありました。しかしながら、里謡や民謡、舞踊や神楽などの伝統芸能、それに古い時代の小中学校の校歌や昔の子供が歌っていた遊び歌などは、継承者や伝承者が減少し、保存の危機にあるものが少なくありません。早急に記録し、多くの方々に見ていただくなどしないと、加茂市が誇る唯一無二の伝統芸能の多くが本当に滅んでしまいます。そこで、民俗編の刊行にあわせて新たに映像の収録や歌の録音を多数行い、DVD4枚、CD2枚の計6枚にまとめたのであります。神楽につきましても、議員御指摘の長瀬神社の神楽等のほか、岡ノ町の山雷神社の神楽も昭和59年収録の貴重な映像を全曲収録いたしております。これらの昔から伝えられた神楽は、昔からの舞いを変えずに今日まで継承されてきたもので、継承の記録もしっかり残っており、専門家が見て学問的批判にたえ得るものであり、しっかり後世に伝えていく必要があるものであるとのことであります。長瀬神社の神楽はこのようなものでありまして、このように市史のDVDに載せて後世に伝える必要性のある立派な神楽がたまたま私が宮司をしている長瀬神社に存在しているからといって、これを非難されるのは甚だ心外であります。

なお、市史編さん室では青海神社御当局にも「昔から伝わっている神楽はありますか」とお聞きしたそうではありますが、「そういうものはない」との御回答であったとのことであります。

また、DVDに青海神社の大正8年の御神幸の貴重な映像が載っているのに対して、長瀬神社の御神幸がカラーで載っているのがけしからんとこのことのようにありますが、長瀬神社の御神幸を載せた主眼は、すばらしい名曲でありますはやし方の楽曲、私はこのはやし方の楽曲をベートーベンと並ぶ世界二大名曲の1つだと言っておるぐらいでありまして、すばらしい曲であります。このはやし方の楽曲を載せることにあったのでありまして、はやし方の衣裳が長瀬神社のものであったため、長瀬神社の御神幸をその楽曲の背景として使ったとのことであります。すなわち、はやし方のすばらしい楽曲のバックグ

ラウンドとして長瀬神社の御神幸を使ったと、そういうことであります。

次に、広報かも平成29年9月号及び平成30年6月号で紹介した資料編5民俗の広告についてであります。先ほど申しましたように、青海神社の御神幸につきましては674ページから678ページの5ページを費やして紹介し、写真も4枚載せております。ただ、広報かもこの広告で青海神社御神幸の写真を載せるに当たり、チラシにして見ばえがするカットに差しかえたものであるとのことであります。内容の矛盾はありません。安武議員は、長瀬神社の御神幸がカラーで載っている、みこしがカラーで載っているのはけしからんと、すなわちカラーを非常に重視しておりますので、ここへ見ばえのするカラーを載せたというのはお気に召すのではないかと思うのでありますが、そういうことであるとのことであります。

また、広告なら広報かもお知らせ版に載せるべきとの御意見であります。市史は広報かもに載せるべき重要な案件でありますので、広報のほうに載せさせていただいたとのことであり、当然のことです。

次に、資料編5民俗の発行部数と収支についてであります。これまでに刊行した加茂市史資料編は、5巻とも800部印刷してまいりました。資料編5にかかった経費は、印刷製本費が624万3,000円、執筆者の原稿料が174万7,893円、付録DVD、CDに収録した映像や録音、編集の経費が128万9,600円、著作権料が2万4,494円、合計して930万5,387円であります。800部のうち413部は、資料提供者、調査協力者と市内の公共、教育機関、国立国会図書館、新潟県立図書館、新潟大学図書館など、県内外の図書館等へ寄贈いたしました。販売部数は、平成30年12月3日現在、116部であります。

次に、加茂市史の原稿化についてであります。議員御指摘のとおり、委嘱した委員の中には志半ばで御逝去された方もおられます。特に通史編や地域の歴史編の原稿が完成する前に御逝去された委員の仕事については、監修者の溝口敏磨先生を中心に、残された委員が当たっているところであります。また、今年度から年度初めには資料編6文化財が刊行される予定であります。文化財については原稿化をほぼ終え、発刊に向けて最終段階に来ております。ここまで資料編が整備されておりますので、今後通史編上巻と下巻が編さんされますが、執筆者の方から御尽力いただき、間もなく原稿が出そろうことになっており、発刊の際はスムーズにいくものと思っております。

次に、次回発行する市史の市章を明確に表示してほしいとの御意見であります。市章については、長岡市史や上越市史などと比べても標準的にあらわされていると考えております。今回の市史編さんに当たりましては、長瀬神社からは門外不出だった膨大な貴重な資料を提供いたしましたので、それらを掲載されたようであります。前回の市史は青海神社の記録が多く、上条や長瀬神社の記録は極めて少ないものであります。あなたからこれに対する批判が全くないのは奇妙であります。今回の市史は、膨大な資料編がありますので、当然上条その他の各地域や長瀬神社も出てきます。膨大な資料を大勢の執筆者が客観的、学術的に掲載したものであります。それをあなたがとやかく批判しても、それこそ学問的批判にたえない身勝手な言動というものであります。

最後に申し上げます。加茂市史資料編5民俗は1088ページ、すごいです。こんなに厚いやつで、あそこに青海神社と長瀬神社だけ載っていたら大変だと思うのですが、そういうものはほんのごく一部です。加茂市史資料編5民俗は、1088ページから成る本文にDVD4枚、CD2枚がついたすばら

しい内容の民俗学の決定版であります。今文書やDVD、CDに残しておかなければ早急に消えうせるであろう行事、風習や芸能、里謡等の民俗資料が満載されております。これで加茂の民俗文化が後世に伝えられることとなります。このように日本民俗学の書物の中でも極めてすぐれた、膨大な内容を有するこの書物の中から青海神社と長瀬神社だけを取り上げて政争の具にしようとされることは、極めて残念なことであります。

次に、加茂公園入り口のトイレについてであります。議員御指摘の加茂山公園の池の端の駐車場にあります公衆トイレについてであります。ことしの豪雪により、トイレ脇にありましたケヤキの木が積雪の重みによりトイレの屋根の方向へ傾き、屋根が一部破損いたしました。そこで、早急に青海神社の宮司さんと協議を行い、ケヤキの木の枝を落とし、その後トイレの屋根の修理に取りかかることとなりましたので、取りかかるまでの間、利用者へ注意喚起をするため、看板を設置いたしました。枝の伐採につきましては、10月29日に行ったところでありました。また、屋根の修理につきましては現在工事を行っており、年内には完了する運びとなっております。また、工事中もトイレの利用ができるようにし、安全に配慮しながら工事を行うことといたしております。屋根の修理費約196万円は、建物総合損害共済保険にて対応することとなっております。

以上、御答弁申し上げます。

○16番（安武秀敏君） 最初、内容については溝口先生が監修しているので、そちらのほうのあれで市長は知らないと言っていますが、市長は会長なのです。刊行委員会の会長で、目を通してと思います。それを全く人の責任にするのはおかしいと思いますけど、いかがですか。

○市長（小池清彦君） 会長なんていう職は全くありません。一番トップは監修者です。私は、市長としてこの刊行を計画し、スムーズにこれが行われるようにしていただくであります。市史には必ずトップがいるのです。これを監修者というのです。今の市史の監修者は溝口敏磨先生なのです。前に出た加茂市史の監修者は、青海神社の宮司の古川先生なのです。だから、前の市史を編さんしたトップは古川先生なのです。それで前の市史がつくられたと。今度の市史は学問的にしっかりいこうということで、溝口敏磨先生が監修者なのであります。ほかのまちの市史も監修者というのは1人いるのです。そういう構成で、その下に執筆者がいるし、またいろいろ資料を集める人たちもいっぱいいるのですが、そういう構成でやっているわけでありまして、別に私をそんなに責め立てても余り私はぴんとかないわけでありまして。

○16番（安武秀敏君） 市長は、青海神社と長瀬神社を取り上げていると言っていますが、そうじゃないのです。市長が言っておられるように、全てのことについて詳細に記述しなければならないと、市長はそうおっしゃっている。そのようにしていただきたいというふうに私は言っているのです。何も長瀬神社とか青海神社、どっちをどうせえと言っていない。加茂市の全体の詳細について記述してほしいと、そういう要望をしているわけでありまして。その点誤解しないでください。何も全てをよくしてくださいと言って、何で長瀬神社の神罰が下るのですか。長瀬神社を悪くせえなんて言っていない。加茂市全体をよくせよと私は言っているわけですから。それで、加茂市全体をよくすることに神罰が下るのですか。

○市長（小池清彦君） あなたの質問内容を見たら、まさになぜ上条を載せるのだなんて言って、あたかも上条は抹殺せよと言っているじゃないですか。違いますか。あなたの質問そういう質問じゃないです

か。それで、何でもかんでも長瀬神社の神輿が大きく載っていき過ぎるとか、長瀬神社の舞ばかり載せてけしからんとか。しかし、長瀬神社の舞はその方面の人たちが認めるところを、そもそもこの辺の舞というものは三条神楽とは別の系列なのです。三条のあの辺の一带は全部三条神楽をやるのです。この辺の神楽はやはり1つのものなのです。昔どこにあったかという、後須田の諏訪神社の麗人がやったのです。徳川時代、それから明治時代、その麗人がやっていたもので、私も舞に携わっていますから、よくわかりますが、すばらしいものです。実にどういう天才が、どういうふうにしてこれだけすばらしいものができて後須田に伝わってきたのか、本当に興味しています。その後須田から明治時代に長瀬神社の麗人が詳細に習ったのです。その記録がちゃんと残っているのです。それを長瀬神社では全く変えないようにして今日まで持ってきたのです。それを載せたわけで、市長のお宮だから載るだけ載せてというようなものではないのです。今申し上げましたように、市史編さん室では青海神社当局にも聞いたのです。「昔から伝わっている神楽はありますか」と言うて。そうしたら、「そういうものはない」という返事が来たというのです。しょうがないじゃないですか。それを載せたからというて、それまで載せる、載せろと言っても、これは学術的なものであって、もう市史編さん委員会に任せてあるものなのです。それにあなたがこうせい、こうせい、ああせいと言うことは政治的な干渉なのです、市史編さん委員会に対する。そういう政治的な干渉は、それは受け付けられないということでもあります。

○16番(安武秀敏君) 内容については、編集委員といいますが、そういう方々が記載、記述していると思いますけど、余り偏ってはいないと思いますけど。内容と広報かもで宣伝した広告の場面、それがこういうふうには好評発売中となっておりますけど、これはことしの6月号。昨年9月号には2ページ使っている。そして、加茂市史の中で青海神社の写真はグラビアにはありません。乳母まつりのモノクロの行列の写真はありますけど。この宣伝見ると、青海神社の門前で、鳥居の前でおみこしを押し上げている。門前は出ている。この広告の段階で市長が内容と違うものをここに載せている、そういうような気がしてならないのです。これは、やはり買った人は不審に思っています。その点どうですか。

○市長(小池清彦君) そんなことは、今初めて私が聞いたのです。その広告の中身は、市史編さん室のほうでつくったのです。その写真を青海神社の写真として載せたのが市史の中に載っているモノクロでなくて、カラーで載っていると、これはどうしたことかなんて言われても、私がそうしたのじゃないから、私に答えようがないのです。しかし、それは私は聞いてよかったのじゃないですか。カラーだと、あなたはカラーを好んでおられるわけだから、カラー写真で宣伝しているわけだからよかったのじゃないでしょうか。ただ、資料の重要性からいくと昔のモノクロの写真のほうが重要性が高いということじゃないかと思えます。

○16番(安武秀敏君) 先ほど加茂三社祭典、これが入っていると仰いました。大正8年の撮影で、8ミリでちらちら雪だか雨降っている状態で、ちかちか、ちかちかと早くて全然よくわかりません、映像が。こんなもので学術的な価値なんてあると思えません。新しくやはり現代の御神幸の行列を載せるべきでしょう。長瀬神社の場合は、行列の御神幸の最初から最後までいろいろありますけど、それを丁寧に説明している。私はそこに大きな差別といいますが、あるのじゃないかなと思うのですが、どうですか。もっと青海神社のほう撮り直ししたらどうですか。こんなちらちら、大正8年の8ミリの見えないうようなので、それで学問的な価値なんてありません。かつてそういう古いのがあったのだという映像のほうというか、撮影のほうのあれはあるけど、お宮の神事といいますが、御神幸を理解することは

きないです、あれでは。

○市長（小池清彦君） そんなこと私に言われてもしようがないじゃないですか、私が掲げたわけでもないのに。私は、あの三社祭の映像は物すごく貴重なものだと思います。あなたは、何かちらちらしていると、気に食わんと、そんなことを政治的に言うたってだめです。ちゃんと執筆する人たちが学術的な見地から非常に重視して載せたのだから。私は、あの映像は極めて貴重な映像だと思います。

もう一つ、先ほど申し上げましたが、私が後でそのでき上がったものを見てみたら、名曲であるはやし方の楽曲、これは本当に日本のトップクラスの楽曲だと思います。それをちゃんと後世に残しておく必要がある。市史に残しておかないと、途中でどんなふうに変わっていくかわけわからんです。今ならばしっかりと残っているから、それをしっかりと市史に残していく必要があるということでそれをDVDに載せたわけです。そのバックグラウンドとして長瀬神社の御神幸を、全部ではないです。小間切乐的にそれが確かに出てきます。出てきますが、私がこれやめるとか、そんなことは言えません。その市史編さんする人たちがそういうのをつくったのだから。それをあなたが政治的に、市会議員の権力によって、けしからんと、青海神社の御神幸をもう一遍載せ直せなんて言うたって、それは政治による干渉であり、介入であって、そういうことはお伺いしたってみんなそうだそうだとは言わんとします。

○16番（安武秀敏君） 私は、全体を記述するように質問しているわけです。2つのお宮だけ取り上げているわけじゃありません。この編集委員会で市長が最初の発刊の言葉で述べられていること、それはいいこと。そのとおりにやってもらえばよかったのに、そうじゃないから。それで私は言っている。これから出るものについて、今度は文化財がありますから、そこでやはり民俗と文化財、これを十分学問的批判にたえ得るもの、そのような内容と、また宣伝、それをしてもらいたいというふうに考えます。

あと、今度は加茂山公園のほうですけど、これはいつ発生したのですか。大木が倒れてトイレを押しつぶそうとしている。これいつ。大分前でしょう。いつだかはっきり把握していませんか。

○市長（小池清彦君） いろいろこれから担当からお答えいたしますけれども、ある1つのところを捉えてこれはけしからん、これはけしからんなんて言われても、これはしようがないです。限られた金で直していくのだから。財政調整基金が八十何万しかないのだから、おのずから時間がかかることも当然あります。そのときに、その公衆トイレだけ重視して、そして半ば怒ったような言い方されても困ります、それは。加茂市中に公衆トイレ山ほどあるのだから。加茂山公園にいたってほかに公衆トイレいっぱいあるのだから。ある1つだけ捉えて、まるで違法行為をやっているような言い方はよくないと思います。そういう前提のもとに担当からお答えします。正直に答えてください。それでいいのだから。

○都市計画課長（樋口敏晴君） トイレ脇のケヤキの木が傾斜してきたというのは、正確な年はわかりません。多分平成15年過ぎぐらいから傾斜してきておりまして、トイレの屋根に近づいてきたというふうに思われます。それで、このたびこの冬に、1月の大雪ですか、そのときに雪が多く積もりまして、その重みで一気に傾斜してきたというような状況になってきたというふうに思っております。

○16番（安武秀敏君） これ質問することになったのは、市民の方が、よそから来た人が加茂市ってお金がないのだねと、トイレの屋根に木が倒れそうになっても直さないでいると、そういうよそから来た人がいましたよということで私質問することになったのですが、加茂山公園は新潟県内はもちろん日本でも有名な公園なのです。2008年からジンロックというロックのフェスティバル、それがあって、15年には長渕剛が来て、16年には大黒摩季、そういうような一流の歌手が来て、全国から来る

のです。そこらのコンビニの食べ物がなくなるというようなことです。私は、去年の冬、千葉県の館山市の民宿に泊まった。民宿は、釣り人が泊まる場所ですけど、船出して現場へ連れていくんですけど、その主人が加茂山へ行ってきたと。長渕が来たんだと。そして、自動車にスプレーみたいの、加茂山公園フェスティバルだと、こう、日にち書いて。そういうふうに全国からそういうロックのファンが来るような、有名な公園なのです。それも市民の理解がなくなったみたいで、ことしはなくなったようですけど、去年まであったのです。市民が何かうるさいと言ったか何か、はっきりしませんけど、そういうような状況です。お宮の木が倒れるというか、大分ほうっておかれたのですか。ちゃんと根っこついているのだから。折れたとか倒れたとかじゃありません。最近の話じゃないんです。弱々と、こう倒れたかもしれないけど、根っこはちゃんとついている。屋根にも大きく食い込んでいるのですから、これ長く放置していたというのはやはり職務怠慢じゃないかなと思いますけど、どうですか。

○市長（小池清彦君） ジンロックフェスティバルが行われる場所には立派なトイレがあります。あそこでやるわけですから、一番上のほうの舞台があるところでやるわけだから、あそこには極めて立派なトイレがあります。

それから、あの加茂山公園は青海神社から御神域の一部を、相当大きな部分ですが、加茂市が借りているわけです。だから、加茂山公園にある木は全部青海神社の木なのです。そんな勝手にできないのです。それで、答弁にもあるように、青海神社の宮司さんと御相談申し上げて、じゃどうしますかということの方針を出して、それから修繕に取りかかったと言うているのだから、答弁としてはおかしくないと思うのですけど。年内に修理が完了すると言うているわけです。だから、いいのじゃないでしょうか。そんなふうに思います。

○16番（安武秀敏君） 年内に屋根直すのですね、年内に。木が食い込んでいるから、あの木が撤去といえますか、抜本的に引っこ抜くとか何か、そういうことをするのでしょうか。あれ斜めになっているのだから、そのまんまいつ倒れるかわからないでしょう。その費用といえますか、予算措置もまだしていないのじゃないかなと思いますけど、木は撤去するのか。その点今後の予定について、予算措置と、あるいは工程について決まっていたら教えていただきたいと。そうでないと、私に言った人がまた聞いても、いや、質問したけど、どうだったかななんていうと悪いから。どういう計画になっていますか。お宮のほうとお話しされたみたいですけど。その辺お願いします。

○都市計画課長（樋口敏晴君） 先ほど言いましたけれども、ケヤキの木の枝の伐採につきましては、公園管理費がございますので……（市長小池清彦君「いやいや、木を切るのかどうか、それをまず答えてください」と呼ぶ）青海神社の宮司様とお話をしまして、太い枝が3本ほど出ております。それを伐採しまして、大もとの幹は残すということでお話をさせていただきました。その後、枝の伐採が終わりましたら屋根の修復にかかるということで、先ほど答弁申し上げましたように、一応もう工事を始めまして、年内に終わらせるというような形にしております。

○16番（安武秀敏君） 言いたいことは言いましたので、公園のトイレの件について、早く安心して用が足せるようにしていただきたいと思います。

また、加茂市史についても立派な市史ができるように望んでいるわけであります。その点市民の皆さんから批判が出ないような、立派な市史をつくっていただきたいと要望して終わります。

以上です。

○議長（森山一理君） これにて安武秀敏君の一般質問は終了しました。

お諮りいたします。本日の会議はこれにてとどめ、11日午前9時30分から一般質問を続行いたしたいと思えます。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（森山一理君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

本日は、これにて延会いたします。

午後4時34分 延会

平成29年度決算 県内市の状況

経 常 収 支 比 率

区 分		(%)	順
1	新潟市	92.4	11
2	長岡市	93.3	12
3	三条市	95.9	18
4	柏崎市	95.0	14
5	新発田市	90.9	7
6	小千谷市	85.3	2
7	加茂市	99.9	20
8	十日町市	95.3	16
9	見附市	90.4	6
10	村上市	91.2	9
11	燕市	91.0	8
12	糸魚川市	95.7	17
13	妙高市	80.4	1
14	五泉市	87.5	3
15	上越市	94.0	13
16	阿賀野市	89.9	5
17	佐渡市	92.1	10
18	魚沼市	88.1	4
19	南魚沼市	95.0	14
20	胎内市	97.4	19
計 (平均)		92.5	

平成29年 県内20市職員一人当たり人口

平成29年4月1日現在

順位	市名	職員一人当たり人口 (人)	職員数 (人)	住民基本台帳人口 (人)
		(②/①)	①	②
1	三条市	127.0	784	99,595
2	燕市	126.8	638	80,909
3	加茂市	122.9	228	28,019
4	新発田市	114.3	869	99,331
5	長岡市	110.1	2,488	273,881
6	十日町市	107.8	508	54,741
7	上越市	102.7	1,908	195,880
8	妙高市	98.4	339	33,366
9	五泉市	93.4	553	51,625
10	柏崎市	92.2	930	85,776
11	阿賀野市	92.1	472	43,464
12	小千谷市	85.6	426	36,454
13	見附市	85.3	481	41,046
14	胎内市	85.2	353	30,071
15	糸魚川市	81.6	539	43,961
16	村上市	81.4	764	62,225
17	魚沼市	71.3	523	37,283
18	新潟市	70.3	11,321	796,269
19	南魚沼市	60.7	954	57,919
20	佐渡市	48.7	1,168	56,852
合計			26,246	2,208,667